

# 取扱説明書

エア静電自動ガン  
サンガンⅢ

EAB500



この説明書には、重要な警告や注意事項が記載されています。  
本機を使用される前に、必ずよく読んでください。  
この説明書は、製品を廃棄するまでは、必ずお手元に保管し、  
紛失・汚損した場合は、販売店または当社までご請求ください。

# はじめに

このたびは、当社製品エア静電自動ガン サンガンⅢ〈EAB500〉をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品を常に最適な状態でお使いいただくために、ご使用される前に、この取扱説明書を必ずよくお読みください。

とくに仕様に定められた諸項目を十分ご理解され、その正しい使用方法に従った使い方をさせていただきますようお願い申し上げます。

この製品は、静電コントローラ（BPS290）と合わせて使用します。  
静電コントローラの取扱説明書も必ずよくお読みください。

なお、ご不明な点がございましたら「型式」「製造番号」をご確認の上、  
当社の営業担当または裏表紙の連絡先にお問い合わせください。



この取扱説明書はすぐに確認できる場所に大切に保管してください。

目次		
1	安全に正しくご使用いただくために	1
2	装置概要	7
	2.1 本体部品名称及び役割	7
	2.2 バックプレート接続部名称	8
	2.3 本体表記内容	8
	2.4 ガン本体構成	9
	2.5 関連付帯部品(オプション品)	9
	2.5.1 エアキャップ(型式:HN シリーズ)	9
	2.5.2 静電コントローラ(BPS290 シリーズ)	10
	2.5.3 送電ケーブル	10
	2.5.4 ガンプラケット	10
	2.5.5 塗料ホース	11
	2.5.6 メンテナンスツールセット	11
	2.5.7 その他構成部品	11
3	仕様	12
	3.1 外形	12
	3.2 製品仕様	12
4	据付	13
	4.1 参考配管系統図	13
	4.2 レシプロケータの据付	13
	4.3 制御盤の据付	14
	4.4 塗料供給装置並びにエア制御式塗料調整器の据付	15
	4.5 電気工事	15
	4.6 エア配管工事	16
	4.7 塗料配管工事	17
	4.8 エアキャップの取付	18
	4.9 点検	19
5	運転前の注意事項	20
6	塗装準備	21
	6.1 塗料	21
	6.2 各エア調整	23
	6.3 吹付距離	24
	6.4 運行速度	24
	6.5 塗料噴霧のカット	24
	6.6 印加電圧	24
	6.7 システム操作順序	24
	6.8 作業中断および終了時の取扱	25

目次	
7	保守及び点検・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
	7.1 作業終了時の措置・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
	7.1.1 24時間以内に作業を再開する場合・・・・・・・・ 28
	7.1.2 24股間以上作業をしない場合・・・・・・・・ 31
	7.2 その他の機器の保守・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
	7.3 定期点検・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
	7.4 消耗部品・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
8	塗装不良対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
9	故障とその処置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
10	部品の交換方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
	10.1 エアキャップの交換・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
	10.2 ペイントノズル ASSY の交換・・・・・・・・・・・・ 40
	10.3 チャージ電極の交換・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
	10.4 ペイントシートの交換・・・・・・・・・・・・・・ 41
	10.5 シュラウドの着脱・・・・・・・・・・・・・・・・ 42
	10.6 フロントブロック ASSY の分解・・・・・・・・・・・・ 42
	10.7 ベローズシール ASSY の分解・・・・・・・・・・・・ 43
	10.8 エクステンションの取外し・・・・・・・・・・・・ 44
	10.9 ピストン ASSY の交換・・・・・・・・・・・・・・ 45
	10.10 塗料ホース・プラグの取付・・・・・・・・・・・・ 46
	10.11 オリフィスの取付・・・・・・・・・・・・・・ 47
11	構成部品・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
	11.1 EAB500・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
	11.2 交換部品・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49
12	処理記録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
13	保証書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52

本取扱説明書の内容を良くご理解頂き、必ず取扱方法を遵守してください。  
この取扱説明に抛らないで使用すると、**人体の傷害や器物の損壊、火災事故**を招く恐れがあります。

以下に述べる安全についての注意事項は、当社製品のご使用に際し最小限の基本的な安全対策と考えてください。

●安全に関する危険レベルを次の2段階に区分して表示してあります。

**警告**

死亡または重大な傷害を招く可能性のある危険

**注意**

軽傷・中程度の傷害を負うか、物理的損壊のみを招く可能性のある危険

●その他の重要事項は、次のように表示してあります。

**注記**

機器の性能や機能を十分に発揮してお使いいただくために守っていただきたい内容

なお、国や自治体の消防、電気、安全関連の法規、規則、またそれぞれの企業や事業部で規則、規定として守るべき事項に従ってください。

**《製品に適した使用範囲》**

本製品は排気設備を有する塗装環境に設置し、エア静電霧化スプレー用の塗料を使って塗装をするための自動ガンです。

上記以外の条件でご使用になる場合は、不適正使用となり、事故の原因になることがありますので、十分ご注意ください。

 **警告**

**火災と爆発**



**塗装場の火災、爆発の防止**

- ハロゲン化炭化水素溶剤は使用しないでください。  
本製品の構成部品に含まれるアルミ合金が化学反応を起こして爆発する危険があります。
- 本製品を仕様範囲外で使用しないでください。  
仕様範囲外で使用すると火災の危険があります。
- 換気装置で適切な給排気を行ってください。  
揮発した有機溶剤などが滞留し、引火による火災の危険があります。
- 塗装室内及び排気装置（ダクト・ファン）は定期的に清掃してください。  
堆積した粉が剥離するだけでスパークが発生し、粉塵爆発を起こす危険があります。  
万一出火した場合に、塗料カス等があると延焼しやすくなり被害が大きくなります。



**アース不良による火災、感電の防止**

- 塗装ブース内の導電体（塗料容器、周辺機器等）は全てアース線で接地してください。  
高電圧によりイオン化された雰囲気中において、アース不良の導電体は帯電し、火花放電による火災や感電の危険があります。  
アースはD種接地以上の工事（接地抵抗100Ω以下）を行ってください。
- 被塗物（ワーク）のアース状態を常に保持してください。  
帯電したワークにより火花放電による火災や感電の危険があります。
- 塗料ホースはアース線で接地してください。  
帯電により火花放電による火災や感電の危険があります。  
塗料がインジェクタおよび塗料ホースを流れる時、静電気が発生し帯電します。
- 塗料容器はアース線で接地してください。（絶縁架台の仕様は除きます。）  
塗料経路により塗料容器が帯電する可能性があり、火災や感電の危険があります。
- 静電コントローラはアース線で接地してください。  
帯電により火花放電による火災や感電の危険があります。  
アース線は外れないようにビス止め等で接続してください。

## 《安全にご使用頂くための警告・注意事項》

### 警告

#### 火災と爆発



##### アース不良による火災、感電の防止

- ハンガに固着した塗料は定期的に剥離してください。  
ハンガと被塗物の接触部分に塗料が固着するとアース不良による火災や感電の危険があります。接地抵抗値は金属の場合は  $1\text{k}\Omega$  以下（樹脂の場合は  $1\text{M}\Omega$  以下）にしてください（測定電圧は  $500\text{V}$  以上）。
- 塗装に不必要なものは塗装ブース内に置かないでください。  
帯電により火花放電による火災や感電の危険があります。
- 塗装作業者は帯電防止の措置を取ってください。  
人体帯電による火花放電が発生し、火災や感電の危険があります。



##### 塗料、溶剤への引火による火災防止

- ノズル洗浄を行う時は、静電コントローラの電源を切ってください。  
ノズル洗浄時に高電圧が印加されると火災の危険があります。
- 火花の発生する装置やマッチ・ライターなどを持ち込まないでください。  
可燃性物質に引火して爆発、火災の危険があります。

#### 機器誤用



##### 整備不良による事故の防止

- 異常音、異常振動、高電圧リーク等がある場合はただちに運転を停止してください。  
製品破損により火災の危険があります。
- 部品破損・欠損がある状態で運転しないでください。  
製品破損により火災の危険があります。

 **警告**

**人体保護**



**高電圧からの保護**

- 静電靴（JIS T8103 に規程されているもの）を着用してください。  
人体帯電による火花放電が発生し、火災や感電の危険があります。
- 高電圧印加中はガン本体に近づかず、ガン本体に接触しないでください。  
高電圧部への接触により、感電の危険があります。
- 塗装作業床は、漏洩抵抗 1 MΩ 以下の静電気帯電防止構造にしてください。  
作業者が感電する危険があります。帯電防止のために、帯電防止構造の対象範囲は、密閉式塗装室内であれば作業床全体、開放式塗装ブースであればブース開口部の両側 1.5m と手前側 2.5m で囲まれた区域です。  
帯電防止の効果維持のため、作業床は汚れたら清掃してください。
- ペースメーカーを使用している人は本製品を使用しないでください。  
本製品の高電圧により、ペースメーカーが誤作動や停止する危険があります。



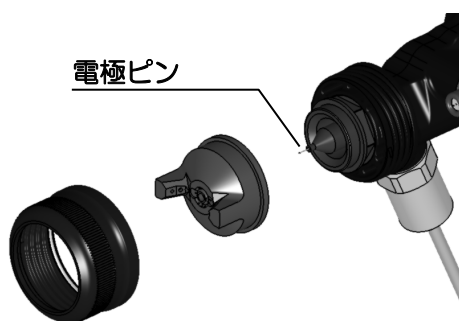
**溶剤、空気、塗料圧力からの保護**

- 人に向けて塗料を噴出させないでください。  
有害物質により炎症や中毒症状など重傷を負う危険があります。  
加圧された塗料により、人体に損傷を負う危険があります。
  - 塗料を扱う際は、保護メガネ、保護マスク、保護手袋※1 を使用してください。  
有害物質により炎症や中毒症状など重傷を負う危険があります。  
使用する塗料の安全データシート（SDS※2）をよく読み、適切にばく露防止および保護措置を取ってください。  
※1 けい皮吸収保護や防汚目的で保護手袋を使用する場合、人体帯電をしないようにする必要があります。確実にアースを取るようになしてください。  
（推奨保護手袋 JIS T8118 に規定されているもの、またはアースバンド等）  
※2 SDS：Safety Data Sheet
- 室内及び排気装置（ダクト・ファン）は定期的に清掃してください。**  
給排気装置が正常に作動しない場合、有害物質により炎症や中毒症状など重傷を負う危険があります。

## 《安全にご使用頂くための警告・注意事項》

### ⚠ 注意

- 本製品を仕様範囲外で使用しないでください。  
仕様範囲外で使用すると製品破損を引き起こす可能性があります。
- 塗装機本体・接続/延長ケーブル・ホース類は洗浄剤の中に浸漬しないでください。  
静電塗装機は電気機械のため、洗浄剤の中に浸漬すると故障の原因となります。
- 接続/延長ケーブル・ホース類は床面を引きずらないで天井または側壁から吊り下げてください。  
擦り傷などによる損傷の原因になります。導電性塗料を使用する場合は、塗料ホースを必ずゴムチューブなどの絶縁物で吊り下げてください。
- 塗装機本体および構成部品の洗浄には金属ブラシを絶対に使用しないでください。  
傷がつき、故障や塗装不良の原因になります。  
ノズルや電極は塗装機の重要部品です。金属ブラシを使用して傷つけると均一な噴霧状態が維持できなくなります。
- ノズル先端と被塗物の距離は必ず 150mm 以上離してください。  
ノズル先端の電位が低下し、塗装不良の原因になります。
- 塗料漏れ、エア漏れ、ネジの緩みのないことをこまめに点検してください。
- 塗装機の電極ピンを不用意にさわらないでください。  
電極ピンが刺さり、人体に損傷を負う可能性があります。  
電極ピンは刺さりやすいので取り扱いには注意してください。

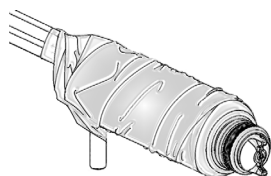


## 《安全にご使用頂くための警告・注意事項》

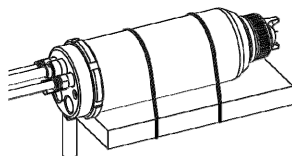
### ⚠ 注意

- 下記のような取付はしないでください。

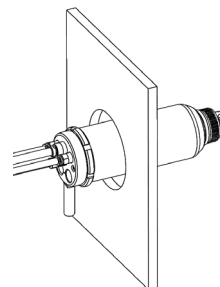
静電ガンはガン先に高電圧を印加し、後部はアース接地して使用するため、本体部分（絶縁部分）には障害物などを配置しないようにして下さい。



①ガン本体に汚れ防止シートを巻いたまま使用すると、内部に湿気がたまり過電流異常となります。



②ガン本体に接近させて金属板を張り付けるとガンの帯電部と板の間で絶縁破壊が起こる可能性があります。



③金属板の孔にガン本体を通して使用すると②と同様に絶縁破壊が起こる可能性があります。

- 消火器を作業区域付近に常設してください。

万一の火災事故に備えて、定期点検を受けたものを常設してください。

- 本製品を破棄する場合は、地球環境保全のため、各地方自治体の条例に基づいた適切な方法で処理してください。

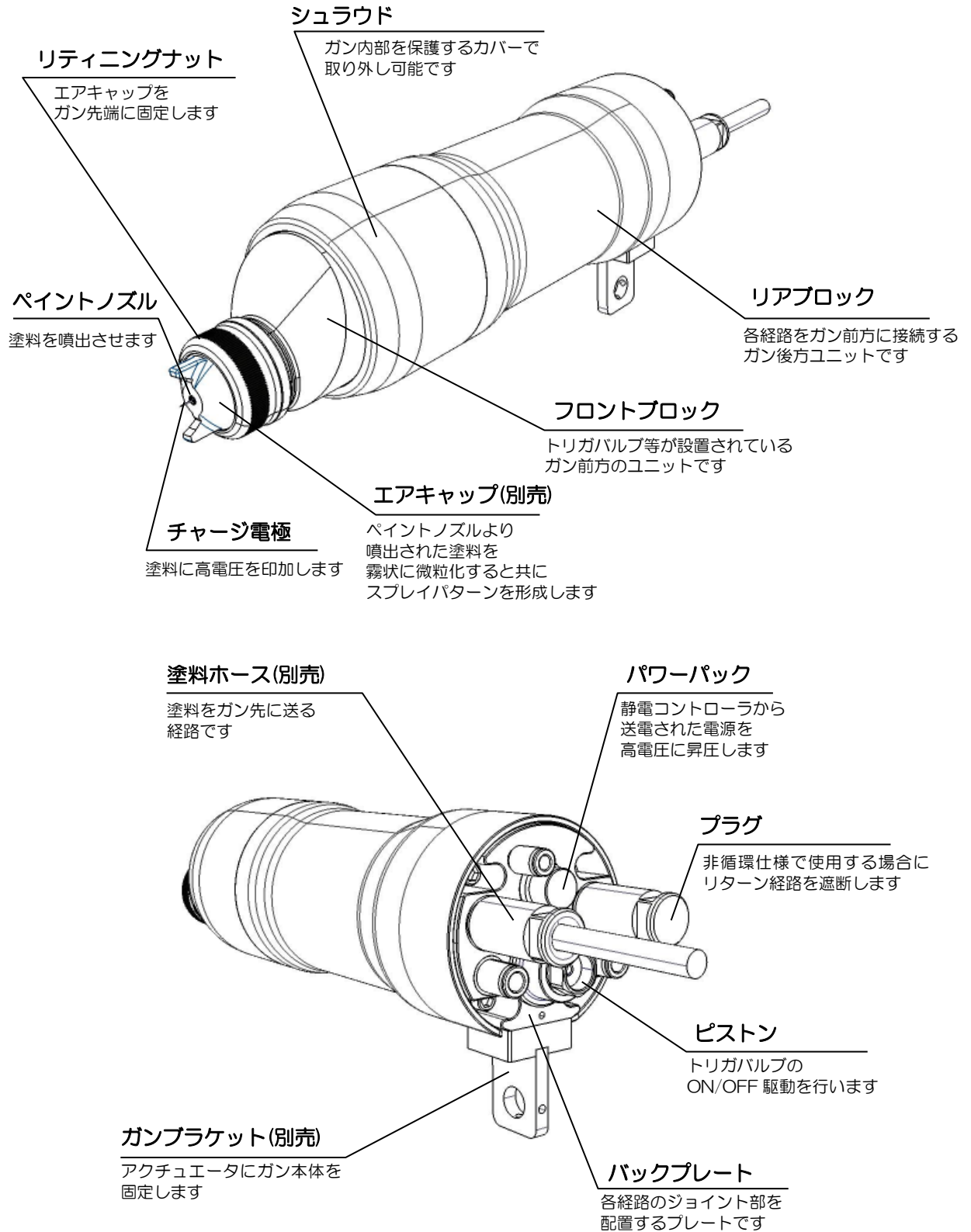
不法投棄は、環境への負荷となるだけでなく、法による罰則の対象となります。

※参考文献：労働安全衛生規則、静電塗装の安全衛生対策（中央労働災害防止協会 発行）

# 2

## 装置概要

### 2.1 本体部品名称及び役割



## 2.2 バックプレート接続部名称

『TAOP』：塗料バルブオペレートエア

:出荷時継手サイズ

OD6mm-ID4mm/Rc(R) 1/8

接続ケーブル

『P-IN』：塗料 IN ポート

『P-OUT』：塗料 OUT ポート

※塗料循環・ドレン用

『PA』：パターンエア

:出荷時継手サイズ

OD8mm-ID6mm/Rc(R) 3/8

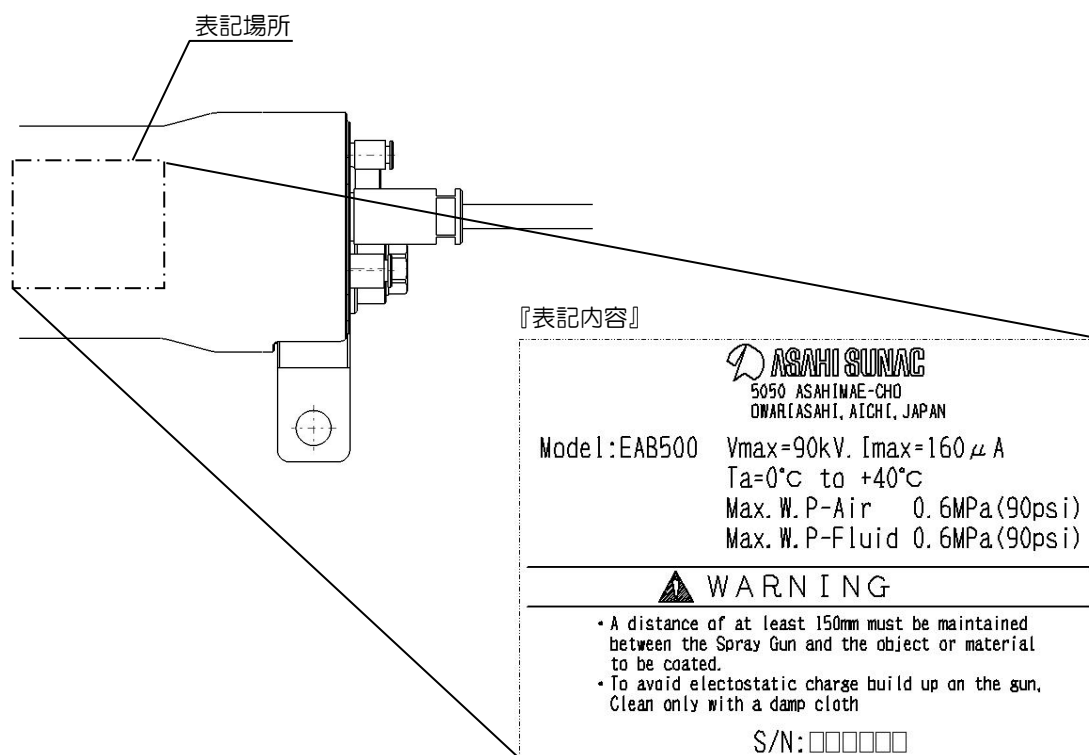
『AA』：霧化エア

:出荷時継手サイズ

OD8mm-ID6mm/Rc(R) 3/8

バルブ塗料漏れ確認孔

## 2.3 本体表記内容



## 2.4 ガン本体構成

### ①エア静電自動ガン「サンガンⅢ」本体（EAB500）

ガン本体はパワーパック（高電圧発生器）が内蔵されていると共に塗料噴出バルブ（トリガバルブ）各エア・塗料経路を有する構造となっています。

本製品は非循環仕様で初期出荷されますので循環仕様としてお使いになる場合は付属部品のプラグを交換してください。

### ②塗料ノズル

ガン先端にて塗料を噴出させると共にパターンエア及び霧化エアを切り分ける役割です。

### ③チャージ電極

ガン先端にて噴出された塗料に対して高電圧を印加させ、静電塗装を行います。

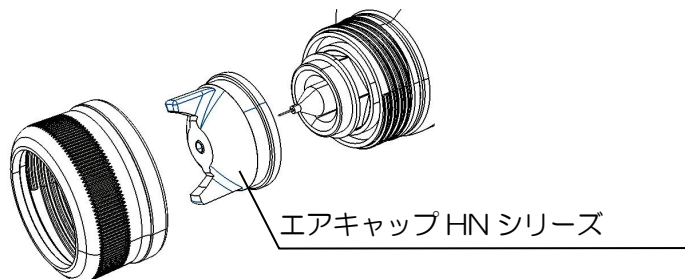
## 2.5 関連付帯部品（オプション品）

- 関連付帯部品及びメンテナンスツールは本製品を運転・運用を行うために必要な機器・ツールです。用途・条件によって下記内容から適切な機器を選定し、**別途手配**してください。
- 関連付帯機器の製品・部品手配に関しては別途各機器取扱説明書で品番・数量を確認して行ってください。

### 2.5.1 エアキャップ（型式：HNシリーズ）

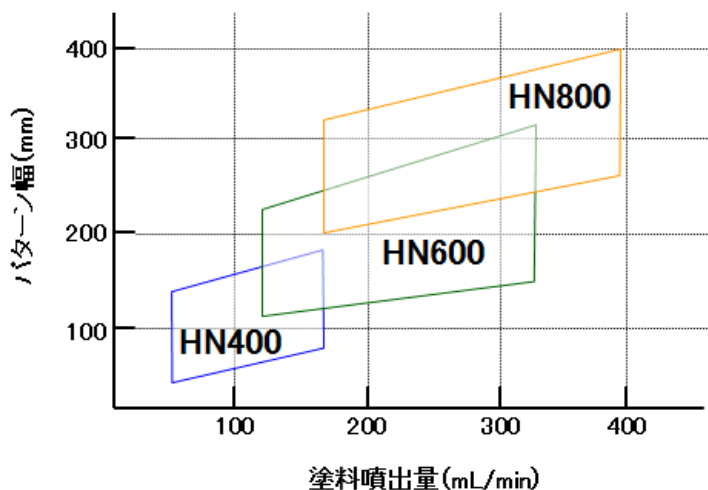
- 塗装機先端に取り付け、エアの力によって霧化及びパターン形成させる働きをもつ部品です。
- 下表より御使用状況に合わせた仕様のエアキャップを選択してください。

エアキャップHNシリーズイメージ図



※HN各シリーズは全て共通のペイントノズル ASSY で使用出来ます。

<エアキャップ選定目安>



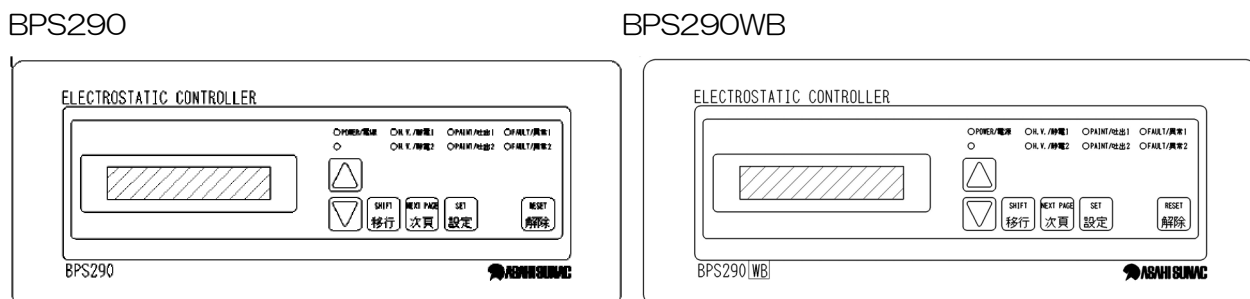
エアキャップ品番

型式	用途	品番
HN400	狭小パターン	15F8-001
HN600	汎用	15F8-101
HN800	高微粒化	15F8-201

## 2.5.2 静電コントローラ（BPS290 シリーズ）

- 塗装機本体に内蔵されているカスケードの高電圧印加制御を行う機器です。  
また、使用時の電流値監視で各種異常検知及び出力を行います。

### BPS290 シリーズ外観図



※仕様詳細に関しては BPS290/BPS290WB の取扱説明書を参照願います。

### 静電コントローラ品番リスト

No.	品名	品番	仕様
1	BPS290	445-0161	日本語/英語 併記 Ver.
2		445-0162	英語 Ver.
3	BPS290WB	6637	水性塗料絶縁架台方式用 ※最大可能印加電圧設定=-50kV 日本語/英語 併記 Ver.

## 2.5.3 送電ケーブル

- 塗装機本体と静電コントローラの間「接続ケーブル」と「延長ケーブル」を組み合わせることで接続し、最大 30m まで使用することができます。

### 接続ケーブル品番リスト

No.	品名	品番	仕様
1	接続ケーブル	2535	10m

### 延長ケーブル品番リスト

No.	品名	品番	仕様
1	延長ケーブル	2530	10m

※30m で使用する場合は、延長ケーブル（2530）を 2 本使用してください。

## 2.5.4 ガンブラケット

### ガンブラケット品番リスト

No.	品名	品番	仕様
1	ガンブラケット	1833-060	M14 ボルト用

## 2.5.5 塗料ホース

- ポンプから塗装機へ塗料を送る為の塗料ホースです。  
電気抵抗値の低い塗料にも使用できる二重構造の特殊ホースです。

### 塗料ホース（金属継手仕様）品番リスト

No.	品名	品番	仕様
1	塗料ホース	3463	1m
2	塗料ホース	3463-1	5m
3	塗料ホース	3463-2	10m

### 塗料ホース（樹脂継手仕様）品番リスト

No.	品名	品番	仕様
1	塗料ホース	3464	1m
2	塗料ホース	3464-1	5m
3	塗料ホース	3464-2	10m

## 2.5.6 メンテナンスツールセット

- 部品の予防保全や故障による修理・部品交換は対象となる各部品 ASSY の交換で対応頂けますが、より詳細な部品交換やカスケード ASSY 等のメンテナンスを行う為の専用工具や厳密なトルク管理が行える管理ツールをセット化したメンテナンスツールです。  
尚、“ASSY” とは、2 点以上の部品を組合わせた組部品のことを示します。

※詳細なメンテナンスを希望される場合はメンテナンス講習を実施致します。

また、詳細なメンテナンスは当社指定のメンテナンス講習を受講された方が行う事を推奨致します。  
メンテナンス講習実施に関しては弊社担当者にお問い合わせ願います。

### メンテナンスツールセット

No.	品名	品番	備考
1	メンテナンスツールセット	35EF	

※各工具の詳細仕様、品番に関しては弊社担当者にお問い合わせ願います。

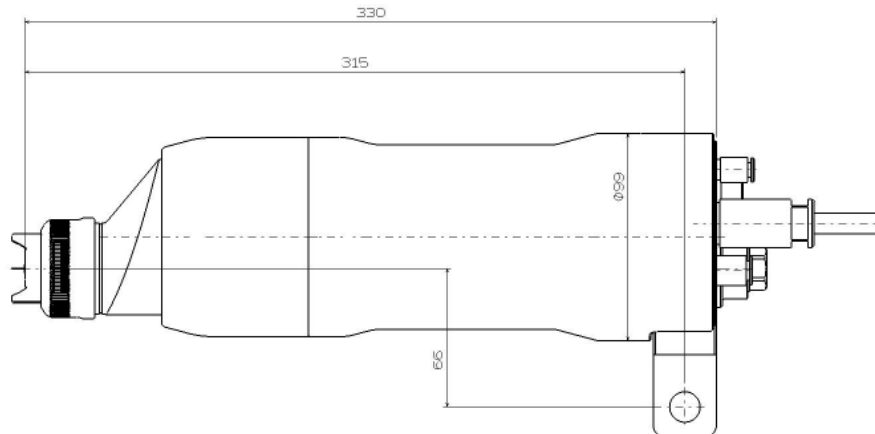
## 2.5.7 その他構成部品

- ①塗料供給ポンプ ⇒ PD シリーズ参照（ダイアフラムポンプ）  
GP シリーズ参照（ギアポンプ）
- ②エア制御塗料調整器（塗料レギュレータ） ⇒ MR シリーズ参照
- ③ドレンバルブ ⇒ CCV2PA/S, 3PA/S シリーズ参照
- ④制御盤 ⇒ 弊社担当者にお問い合わせ願います。

# 3

## 仕様

### 3.1 外形



### 3.2 製品仕様

型式	EAB500
本体寸法	φ99×330mm
質量	2,700g ※塗料ノズル・プラグ含む、塗料ホース・ガンブラケット除く
最高液圧力	0.6MPa
最高エア圧力	0.6MPa
最大印加電圧	DC-90kV (BPS290WB 使用時は DC-50kV)
最大電流値	160μA
トリガバルブ作動圧力	最小作動圧力：0.3MPa 常用作動圧力：0.4~0.5MPa
適応エアキャップ	HN400/HN600/HN800
静電コントローラ	BPS290 シリーズ
接続ケーブル長	10m ※延長ケーブルと組み合わせることにより 30m まで延長して使用することができます。
使用環境	温度：5~40℃ 湿度：40~80%
供給エア条件	固形粒子サイズ：0.1 μm 以下 圧力下露点：10℃ 大気圧露点：-17℃ 油残量：0.01mg/m <sup>3</sup>

### 注記

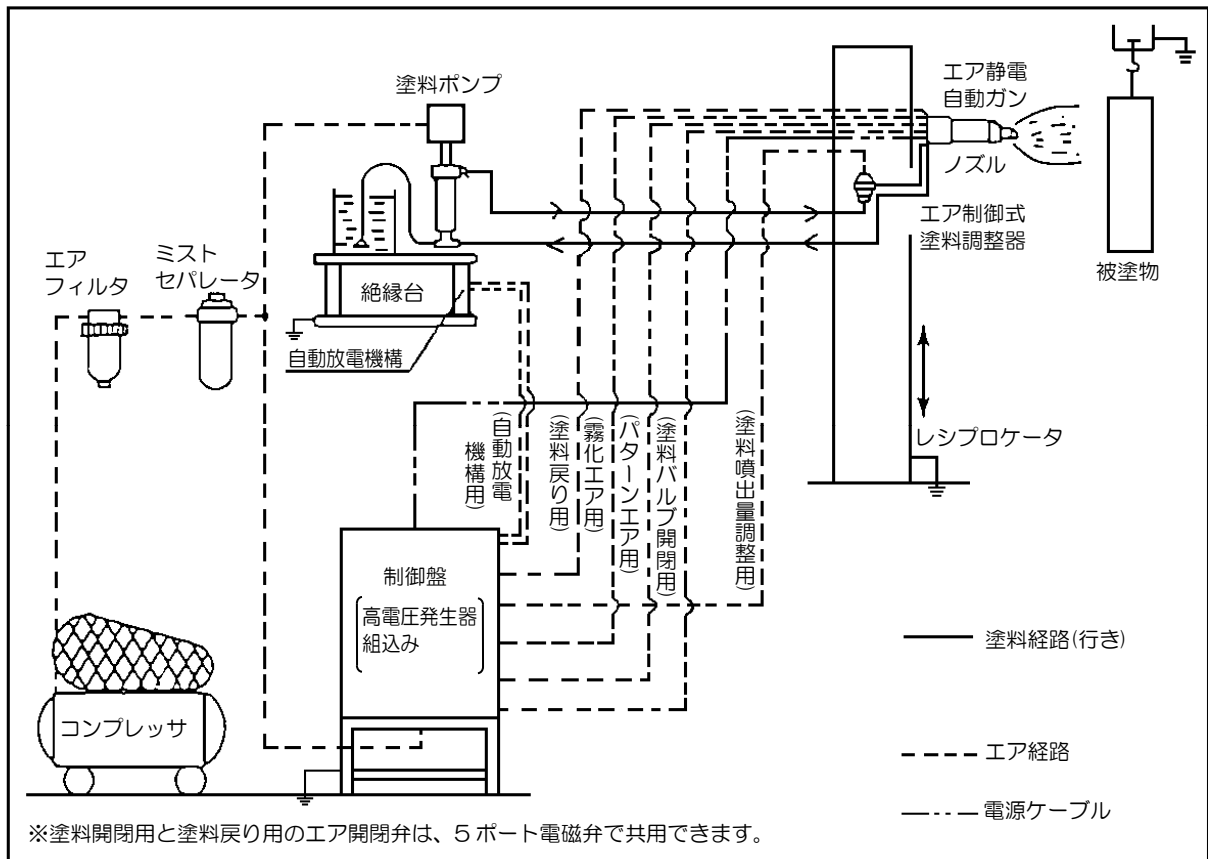
塗料は40℃以下の温度で供給してください。  
塗料の温度が高い場合、塗料ホースが柔らかくなってはずれることがあります。

### 注記

塗料圧送装置および塗料レギュレータについては、各取扱説明書を参照ください。  
また、塗料圧送圧力は0.6MPa以下で使用してください。

## 4.1 参考配管経路図

本機器の代表的なシステム配管経路を下記に示します。



本配管経路図はレシプロケータシステムへの取付参考例です。

その他のシステムや詳細据付に関しては本取扱説明書を参考に別途工事仕様書に基づいて検討してください。

## 4.2 レシプロケータの据付

## ① 架台を水平に置く。

この場合、架台の位置は下記に基づいてください。

- エア静電自動ガンノズル先端と被塗物間の距離が 150～200mm で、レシプロケータが架台の中心に位置すること。
- エア静電自動ガンノズルの中心から塗装室壁面迄の距離を 800～1000mm 程度離すこと。

## ② レシプロケータ本体を架台に載せる。

## ③ 架台をアンカーボルトで固定する。

## ④ 前後移動用調整ネジの支持金具をレシプロケータ本体下部に固定する（ボルト締め）。

⑤アームパイプをキャリア板に固定する（ボルト締め）。

この場合、アームパイプの長さは下記に基づいて調整してください。

- ・レシプロケータ側壁とエア静電自動ガンあるいは、エア制御式塗料調整器間の距離は300～400mm 離すこと。
- ・エア静電自動ガンとエア静電自動ガン間の距離は300～400mm 以上離すこと。

⑥エア静電自動ガンの取付金具とエア制御式塗料調整器の取付金具をアームパイプに挿入固定すること。

⑦エア静電自動ガンとエア制御式塗料調整器を取付金具に固定する。

⑧注油が必要な部分にオイルやグリスを注油または塗布する。

⑨レシプロケータ下部の固定ボルトを締付け、レシプロケータを架台へ固定する。

⑩レシプロケータの天板を固定する。

## 注意

**エア静電自動ガン、レシプロケータの側壁、エア制御式塗料調整器、他の塗装ガンとの距離が近いと各々への塗料付着が増加し、過電流保護回路などの安全装置が誤動作したり、機器が損なわれる原因になります。また、ブース壁面からも1m以上離すことで壁面の汚れが減ります。**



### 4.3 制御盤の据付

エア静電自動ガン用の制御盤は、防爆仕様ではありませんので、下記に基づいて据付けてください。

#### ①据付場所

- ・塗装室外であること。
- ・塗料の噴霧が及ばないこと。
- ・直射日光や、振動、雨水の影響のない場所。
- ・接続ケーブル+延長ケーブルの長さが標準長さ（最大30m）で使用できる場所。

#### ②据付方向

- ・壁掛け式  のいずれかで。
- ・自立式  のいずれかで。
- ・操作しやすい位置であること。

取付台を製作する場合には、等辺山形鋼 5×40×40 またはこれ以上の鋼材を用いること。

## 注意

**制御盤の接地線は3.5mm<sup>2</sup>以上の太さの電線を使用し、D種接地（接地抵抗100Ω以下）が施工されている場所に確実な配線工事をしてください。**


#### 4.4 塗料供給装置並びにエア制御式塗料調整器の据付

塗料供給装置は、塗装室外の操作し易い場所に据付けます。塗料の電気抵抗値が低い場合には、絶縁台を用い塗料容器とポンプおよびレシプロケータアームに取り付けたエア制御式塗料調整器を絶縁すると共に、接地された物体から 300mm 以上の空間距離を確保してください。また、塗料供給装置の周囲には、接地した保護柵を設けてください。塗料供給装置等の接地は、下記のものを行なってください。

##### ①塗料の電気抵抗値が高い場合（一般的な場合）

- 塗料供給装置
  - エア制御式塗料調整器
  - 塗料容器
- 
- 全て接地する。

##### ②塗料の電気抵抗値が低い場合（絶縁台使用の場合）

- 絶縁台のベース
  - 保護柵
- 
- のみ接地。

#### 4.5 電気工事

塗装室内は、可燃性のガスが存在する危険な第2種場所ですから、電気工事は電気設備技術基準第208条と第250条の規定に基づいて行なってください。

##### ①制御盤への電源接続

- 三相交流電線 200V 50/60Hz
- D種接地（接地抵抗 100Ω以下）

##### ②制御盤とレシプロケータ間の接続

- レシプロ駆動電動機 φ3 200V 0.75kW（安全増防爆）
- 塗料カット用リミットスイッチ 15V（本質安全防爆）

##### ③静電コントローラと保護装置間の接続

- 塗装室ドアスイッチ 15V（本質安全防爆）
- 塗装室高圧表示灯 200V 40W 以下

##### ④コンベアとの連動

- コンベア連動接点受入端子内蔵（コンベア連動接点は客先手配 a 接点無電圧）

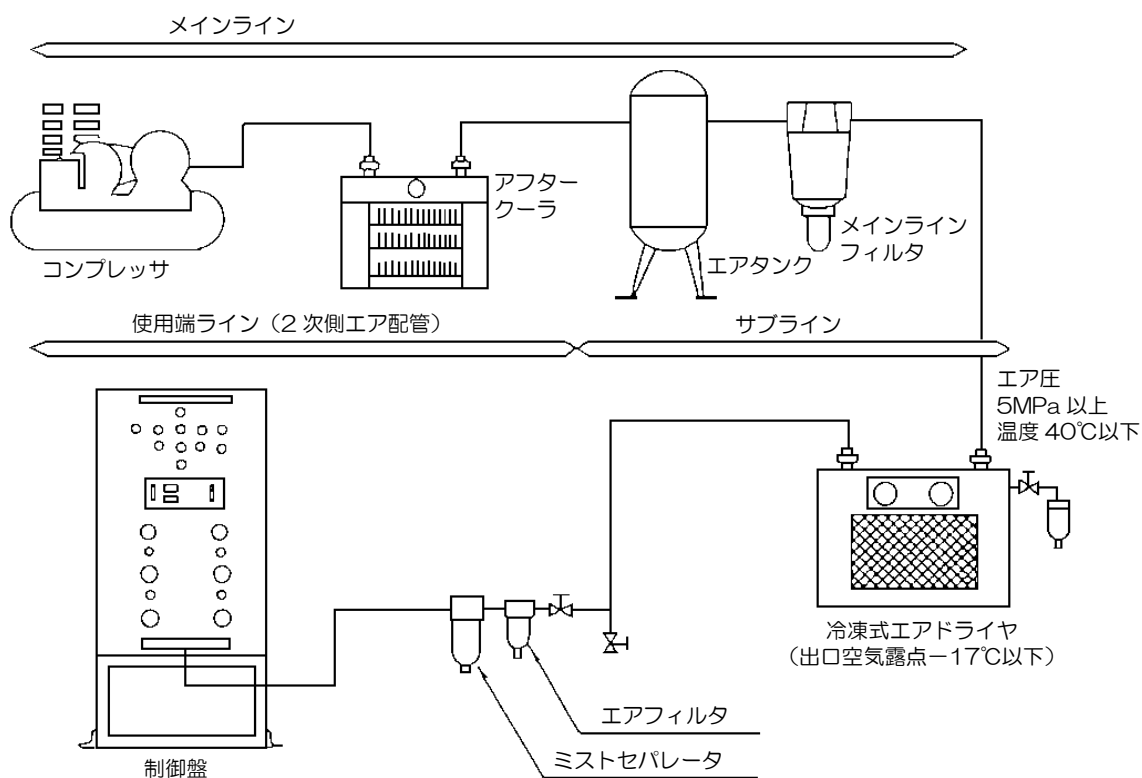
##### ⑤接続ケーブルの接続

- 塗装室内から室外の静電コントローラへケーブルを引き出す場合には、「貫通ブッシュ」を用いると共に、レシプロケータの移動により接続ケーブルが折れ曲がったり、他の物体に接触してこすれない様、「絶縁サポート」等を組み合わせて支持してください。
- 接続ケーブルを静電コントローラの入力端子に挿入する場合は、メタルコンセントを乾布できれいに拭き、水分や汚れなどのないことを確認してから挿入し、ナットをしっかりと締め付けてください。

## 4.6 エア配管工事

圧縮空気は塵埃やオイルミスト、水分を出来る限り少なくした良質のものを用意してください。  
又、圧縮機から制御盤迄の配管は途中での圧力損失を防止するため、  
少なくとも3/4B インチ以上の鋼管を用いてください。

①制御盤の空気取入口に「ミストセパレータ」と付属の「エアフィルタ」を接続する。



②「ストップバルブ」へコンプレッサからの配管を接続する時、メイン配管からの分岐はティを用いて一度上に上げてから分岐配管を下げてください。

③塗装機からエアホースを制御盤の空気取出口へ接続する（接続口径φ8）。

- 塗装室内から室外の制御盤へホースを引出す場合には、「貫通ブッシュ」または「絶縁サポート」を用いる。
- レシプロケータ動作時に、ホースに過度な引っ張り力や曲げ力が加わらない様に長さの余裕をとる。
- レシプロケータ動作時に、ホースが折れ曲がったり、他の物体に接触してこすれたりしない様、「絶縁サポート」を用いて支持する。
- エア静電自動ガン後部からの「TAOP」のエアホースを塗料バルブ開閉用エアへ接続する。
- エア静電自動ガン後部からの「AA」のエアホースを霧化エアへ接続する。
- エア静電自動ガン後部からの「PA」のエアホースをパターンエアへ接続する。

この電磁弁は「TAOP」へ接続するエアが「開」の時に「閉」、閉の時には「開」になりますので、「TAOP」と合わせて5ポート電磁弁を使用することができます。

- ④エア制御式塗料調整器からのエアホースを制御盤の空気取出口へ接続する。
- ・エア制御式塗料調整器からの塗料噴出量調整エアホースを塗料噴出量調整用エアに接続する。

⑤塗料供給装置からのエアホースを制御盤の空気取出口へ接続する。

- ・塗料供給装置の塗料開閉弁からのエアホースを塗料循環へ接続する。

■自動放電機構付の場合

- ・自動放電機構上側からのエアホースを自動放電機構 A へ接続する。
- ・自動放電機構下側からのエアホースを自動放電機構 B へ接続する。

#### 4.7 塗料配管工事

塗料ホースは内部の塗料に高電圧が印加されますので、他の物体に接触しない様、「貫通ブッシュ」や「絶縁サポート」を組み合わせせて配管してください。

①「塗料ポンプ」から「塗料容器」へ「戻りホース」を接続する（接続口径 PF1 / 4）。

塗料に混入する空気の泡が塗装上問題になる場合には、「戻りホース」を塗料容器の底部近くまで伸ばしてください。

②「塗料供給装置」と「エア制御式塗料調整器」間を接続する。

■塗料抵抗値が高い場合（ $20M\Omega \cdot cm$  以上 絶縁台を使用しない場合）

- ・塗料ホースは導電性塗料用二重ホースを用いる。

塗料の粘度が高い場合  
塗料噴出量を多く必要とする場合

には、

塗料供給装置とエア制御式塗料調整器間のホース長を出来る限り短くすると共に、塗料ポンプの噴出口で分岐した 2 回路で、エア制御式塗料調整器へ塗料を送るか、エア制御式塗料調整器のところで分岐し、各々の自動静電塗装機へ塗料を送ってください。

■塗料抵抗値が低い場合（ $20M\Omega \cdot cm$  以下 絶縁台を使用する場合）

この場合も上記同様に行なってください。

③「自動静電塗装機」「塗料供給装置」と「エア制御式塗料調整器」間を接続する。

- ・塗装室内から室外へ塗料ホースを引出す場合には、エアホースと同様にしてください。
- ・エア静電自動ガンからの塗料ホースをエア制御式塗料調整器に接続する。
- ・エア制御式塗料調整器から塗料供給装置に塗料ホースを接続する。

この時、塗装室内から室外に塗料ホースを引出す場合はエアホース同様にしてください。

- ・エア静電塗自動ガンから塗料供給装置に塗料ホースを接続する。

この時、塗装室内から室外に塗料ホースを引出す場合は、エアホース同様にしてください。

④「塗料ノズル」を塗装機本体に取付ける。

ノズルの取付けは、ホース類の配管が完了してからにしてください。

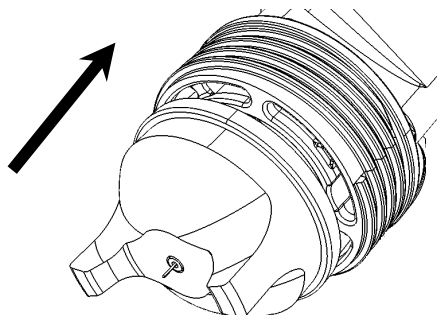
又、取付け時に噴出部へ傷が付かない様、十分に注意をはらってください。

#### 4.8 エアキャップの取付

(1)エアキャップを手でノズルに固定してください。

この際、エアキャップによって電極ピンが折れ曲がらないように注意してください。

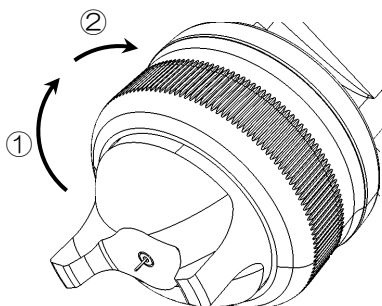
また、ガン内部にシンナや溶剤が侵入しないようにガン先端を下向きにして実施してください。



(2)エアキャップの外側からリティニングナット ASSY を通します。

①リティニングナット ASSY を硬くなるまで締め込んだ後、エアキャップの角方向をパターン形成する方向に合わせてください。

②エアキャップが固定されるまで更に強くリティニングナット ASSY を締め込んでください。



### ⚠ 注意

**人体への障害や電極ピンの破損に繋がる恐れがあります。**  
ガンにエアキャップを取り付ける際は、電極ピンに触らないでください。

### ⚠ 注意

**機器の破損に繋がる恐れがあります。**  
樹脂製品のため、締め付け過ぎますとノズル取付けジョイント内径ネジを破損することがあります。  
脱着には十分注意してください。

## 4.9 点検

据付工事が完了したら、据付完成点検表をもとに各機器を点検し、不具合な部分があれば、即座に調整、改善してください。

### ①通電前の点検調整

- ノズルと被塗物および側壁との距離。
- 接地工事の忘れがないかの確認。
- ホース類のまとめ方並びに接続部の締付状態の確認。
- エア制御式塗料調整器の周囲 300mm 以内には、接地物体がないことの確認。
- オイラの油量の確認。
- その他、点検表による各機器の動作確認。

### ②通電後の点検調整

- レシプロケータの塗料カット用リミットスイッチ取付位置と回転ドラムの調整具合。
- ホース類に引っ張り具合や曲がり具合。
- 安全回路動作具合と調整値。
- その他、点検表による各機器の動作確認。

# 5

## 運転前の注意事項

「サンガンⅢ」のシステムは安全性に重点をおいて構成されておりますが、「可燃性のガスが存在する場所」で使用されるため、十分すぎるほどの注意をもって取扱う必要があります。

### 警告

- 被塗物は常に接地状態に保持してください。  
(金属の場合は  $1k\Omega$ 、樹脂の場合は  $1M\Omega$  以下とする。)  
被塗物は一般的には、コンベアから接地されますが、ハンガとの接触部分に塗料が固着すると導通不良となり、被塗物に相当の電荷が蓄積され、スパークを生じて火災になる危険があります。ハンガの塗料は定期的に剥離させてください。
  - 塗装室内の金属物体は全て接地してください。  
塗装室内は高電圧が露出しておりますので、室内の金属体は接地してないと帯電してスパークを生じて火災になる危険があります。
  - エア静電自動ガン塗料ノズルに被塗物を接触させないでください。  
被塗物の吊下げ不良や、コンベアの揺れにより被塗物がノズルに近接するとスパークを生じて火災になる危険があります。特に、絶縁台を使用している場合には、大きなスパークが発生する為、十分な吹付距離を保ってください。
  - 絶縁台を使用する場合には、塗料供給装置は周囲の物体から  $300\text{mm}$  以上離してください。  
電気抵抗の低い塗料は電線と同じように電気を通しますから、塗料容器等に接触すると電撃を受ける危険があります。通路に面している場所では、接地した安全柵が必要です。
  - 作業者は静電靴（電気抵抗  $1M\Omega$  程度）をはいてください。  
ゴム底、合成樹脂底の靴をはきますと、接地体に触れた時電撃を受ける危険があります。
  - 塗装作業中は必ず換気装置を作動させてください。  
塗料や溶剤は消防法により危険物規制を受けており（危険物第 4 類に該当します）、更にこれらの噴霧により発生する可燃性のガスは工場防爆指針による爆発性ガス（爆発等級 1）に該当しておりますので、換気装置を停止させたままでの作業は出来ません。
  - 塗装室内に塗料や溶剤を放置しないでください。  
塗料や溶剤は危険物規制を受けておりますので、法規に定める貯蔵庫に保管させてください。特に、洗浄用の溶剤は接地した蓋付きの容器に保管してください。
- 
- 消火器を作業区域付近に常設してください。  
万一の火災事故に備えて、定期点検を受けた、粉末の炭酸ガス消火装置を常設してください。

# 6

## 塗装準備

塗装作業の前に、下記手順に従って塗装準備を行ってください。

### 注意

静電コントローラの電源スイッチがOFFになっていることを確認してください。

#### 6.1 塗料

##### ①塗料の調合

この装置は、一部の塗料を除き、ほとんどの合成樹脂塗料で静電効果を得る事ができますので、特別に塗料の調合をする必要はありません。但し、場合によって溶剤の電気抵抗などの調整を行うことにより、更に高い静電効果を得ることができます。また、一部の電気抵抗値が極端に低い塗料・高い塗料は、静電効果があまり期待できないものがあります。塗料抵抗計にて抵抗値を確認してください。

塗料抵抗値は、およそ  $15\sim 70\text{M}\Omega\cdot\text{cm}$  の値を目安に調整することによって、ほとんどの場合、良好な効果を得ることができます。 $15\text{M}\Omega\cdot\text{cm}$  より低い抵抗値では静電効果が良好であっても、プースの換気が適切でない場合、ガンへ塗料の吹きかえりが生じます。

### 注記

静電効果の良否の判定方法は、 $\phi 20\sim 30\text{mm}$ の鋼管を接地した状態にて正面より塗装し、裏面まで塗膜が形成されていれば、静電効果が良好であることを示します。

### 注意

メタリック、水性塗料等の極端に電気抵抗値が低い導電性塗料は、絶縁台を使用した塗料供給システムを使用しなければ静電効果をほとんど期待する事ができません。また、このような塗料では高電圧印加時に静電コントローラの高電圧遮断回路が作動し、警報ブザーと共に高電圧を遮断します。静電コントローラの電源スイッチをOFFにすれば、警報ブザーはリセットされます。

### 注意

引火点が室温より $5^{\circ}\text{C}$ 以上高い塗料や溶剤を使用し、必ず換気装置を作動させてください。

### 注記

ガン及び装置と塗料の適合性が不明な場合は、当社までご相談ください。

## ②塗料投入

塗料供給装置へ塗料を入れてください。

本塗装装置を使用の際の一般的標準粘度としては、9～30sec/FC#4 程度ですが、塗料、溶剤の種類、被塗物の形状、及び塗膜の厚み等の種々な条件により、必ずしも限定されるものではありません。

## ③塗料供給（操作に関してご使用される塗料供給装置の取り扱い説明書をご参照ください）

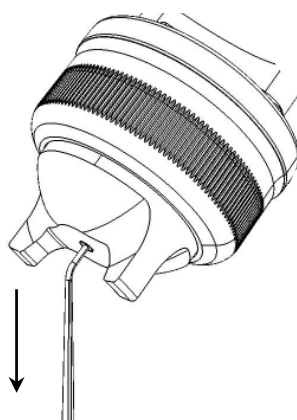
塗料ホース中に空気が残っていると塗料噴出時に息切れ状態となり、噴出状態が一定しませんから、ホース内の空気は完全に抜いてください。

## ④塗料噴出

ガン先から塗料を噴出させます。

ガンにエアを供給しない状態で、塗料バルブをONにして、塗料をガン先から噴出させます。

塗料ホース内に空気が残っていると、塗料噴出時において息切れ状態となりますから、ホース内の空気が無くなるまで塗料を噴出させてください。



## ⑤塗料噴出量の調整

制御盤の作業選択スイッチを「手動」操作にし、塗料開閉用スイッチを「入」にし、制御盤下面の塗料噴出量調整用のエアレギュレータ圧を昇圧し、ノズルより塗料を流出させながら規定噴出量に調整します。低粘度の塗料を少噴出量で使用する場合には、エア静電自動塗装機とノズルの間に、オリフィス（別売）を挿入することにより調整が容易になります。

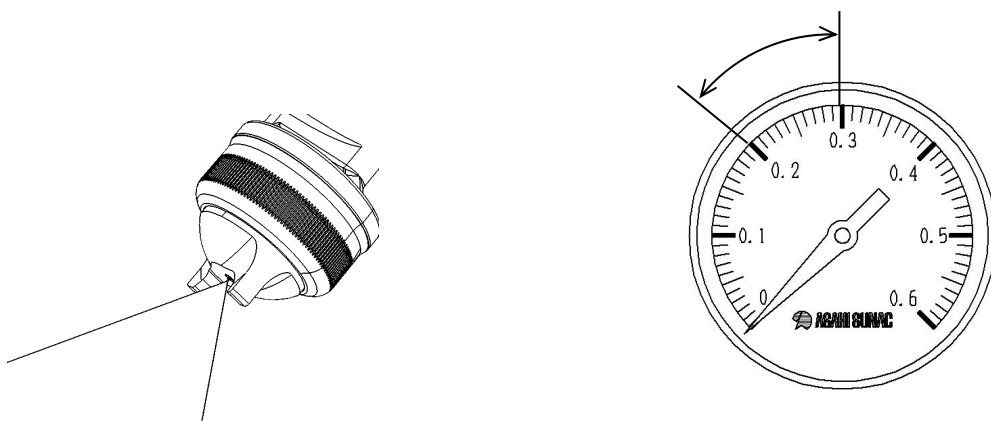
## 6.2 各エア調整

### ①霧化エア調整

ガンから噴出する塗料の霧化状態を確認します。

ガンに供給するエア圧を 0.2~0.3MPa (目安) にし、トリガバルブを開放して塗料を霧化させます。霧化エア圧の調整は、制御盤の作業選択スイッチを「手動」操作にし、霧化用スイッチを「入」にし、制御盤下面の霧化エア調整用のレギュレータを操作して、エアキャップよりエアを噴出させながら行ないます。

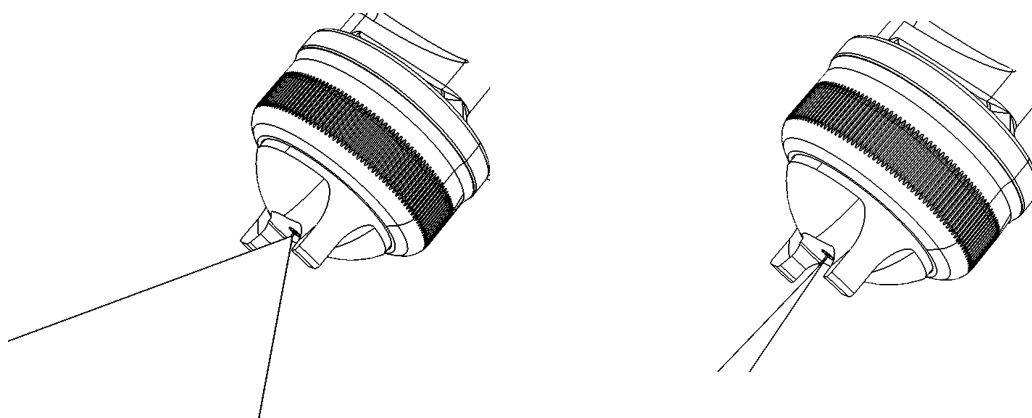
霧化エア圧は一般的には、平吹ノズルで 0.05~0.35MPa の範囲ですが使用するエアキャップや目標とする仕上がり状態に合わせてエア圧力を調整してください。



### ②パターンエア調整

霧化された塗料のパターン幅を調整します。

パターン変更エア圧の調整は、制御盤の作業選択スイッチを「手動」操作にし、霧化用スイッチを「入」にし、制御盤下面のパターン変更用のエアレギュレータを操作して、塗料を噴霧しながら噴霧パターン幅の変更を行ないます。



### 6.3 吹付距離

吹付距離はノズル先端と被塗物の最接近距離を 150mm 以上とし、塗装機はレシプロケータ前面より前に出してください。

距離を離しすぎると付着効率が減少し、接近しすぎるとスパークのおそれがあります。

最適吹付距離は、250～300mm の範囲です。

### 6.4 運行速度

レシプロケータの運行速度は必要とする塗膜の厚みから決まりますが、一般的には 15～45m/min の範囲です。

毎分 50m を超す速度でも必要な塗膜が得られない場合には、エア静電自動ガン数を増加するか、塗料ヒータを加える（塗料は 40℃以下でご使用ください。）などの検討をする必要があります。

その際は、当社塗装技術部門にご連絡をお願い致します。（運行速度を速くする事は、付着効率の低下を招き、最良の策とはいえません。）

### 6.5 塗料噴霧のカット

レシプロケータの運行ストロークは固定されていますから、被塗物の長さ（または幅）に応じて unnecessary 部分の塗料はカットします。

カットの調整は噴霧状態を見ながら当社レシプロケータ操作盤の設定を変更してください。

### 6.6 印加電圧

塗料の種類や被塗物の材質により調整します。一般的には、-50～-70kV 位、

メタリック塗料では-40～-60kV 位、水性塗料では-30～-50kV 位、木工製品では-40～-90kV 位です。

### 6.7 システム操作順序（システムの仕様により異なります。標準的な仕様の例です。）

#### ①手動操作

- 電源を投入する。

盤内のブレーカを投入し、「電源」表示灯の点灯を確認する。

ドアスイッチ使用の場合は、ドアスイッチが閉じていることを確認する。

- 作動選択スイッチを「手動」に合わせる。

「手動」表示灯を確認する。

- 作業選択スイッチを「塗装」に合わせる。

- 霧化用エアおよびパターン変更用エアを噴出する。

霧化用スイッチを「入」に合わせる。「霧化」表示灯の点灯を確認する。

- 塗料を出す。

塗料用スイッチを「入」に合わせる。「塗料」表示灯の点灯を確認する。

制御盤下面のエアレギュレータにより、霧化エア圧、パターン変更エア圧および塗料噴出量の調整を行う。

- レシプロ用「起動」スイッチを押す。  
「レシプロ」表示灯の点灯を確認する。
- 高電圧を供給する。  
制御盤正面中央のコントローラの電源スイッチを「ON」にする。この時、コントローラの電源ランプ（緑色）の点灯を確認する。次に制御盤正面上方の高電圧用押ボタンスイッチ「入」を押す。  
この時「高圧」表示灯および、コントローラの高圧ランプ（赤色）の点灯を確認する。
- 塗装作業に移る。

## ②自動操作

- 電源を投入する。  
盤内のブレーカを投入し、「電源」表示灯の点灯を確認する。  
ドアスイッチ使用の場合は、ドアスイッチが閉じていることを確認する。
- 作業選択スイッチを「自動」に設定する。
- 作業選択スイッチを「塗装」に設定する。
- 霧化用スイッチが「入」になっているのを確認する。
- 塗料用スイッチが「入」になっているのを確認する。
- レシプロ用「起動」スイッチを押す。  
「レシプロ」表示灯の点灯を確認する。
- 高電圧を供給する。  
制御盤正面中央のコントローラの電源スイッチを「ON」にする。  
この時、コントローラの電源ランプ（緑色）の点灯を確認する。  
次に、制御盤正面上方の高電圧用押ボタンスイッチ「入」を押す。  
この時「高圧」表示灯およびコントローラの高圧ランプ（赤色）の点灯を確認する。
- 塗装作業に移る。

## 6.8 作業中断および終了時の取扱

### ①塗料ノズルの洗浄

作業中断および終了時には必ずノズルを洗浄します。

- 高電圧用押ボタンスイッチの「切」を押して高電圧を切る。
- レシプロケータを停止させ、塗料とエアの噴霧を止める。
- 塗料ノズルの先端に接地したアース棒を 10 秒以上確実に接触させて、残留電荷を完全に放電する。
- 溶剤を含ませたブラシ（馬毛、動植物性の毛を用いたブラシ）を用いて、ノズル表面に付着した塗料を溶かしながら洗浄する。  
ブラシでこすっても落ちない場合は、ノズルを溶剤中に数分間浸漬させた後、再度ブラシでノズルを傷つけないようこすり落とす。
- 洗浄後は、手動操作にして霧化エアを噴出させ、空気通路に流入した溶剤を吹きとばす。

## ②塗料ホース、自動エア静電塗装機、エア制御式塗料調整器の洗浄

塗料の色替えや塗装機を長時間使用しない場合には、塗料経路内を洗浄します。

- 高電圧スイッチの「切」を押し、高電圧の発生を止める。
- レシプロケータを停止させ、塗料とエアの噴霧を止める。
- 作業選択スイッチを「洗浄」にする。
- 手動操作にし、塗料ポンプを空送りし、塗料経路内の塗料を抜き取る（加圧したエアを送ると、時間を短縮出来ます）。

この時、高電圧が切れていることを再度確認する。

- ポンプの三方コックを切り換えて、塗料ホース、エア制御式塗料調整器、自動エア静電塗装機内の塗料をエアにて押し出す。押し出した後は、コックを閉じる。
- 塗料ポンプの吸い上げパイプを溶剤タンクに切り換え、自動静電塗装機先端から溶剤を流出させずに、塗料経路内を循環させます（きれいな溶剤でこの動作を 2~3 回繰り返します）。
- 長時間使用しない場合は、塗料経路内の溶剤を完全に出すか、または完全に充滿しておいてください。
- 各機器の表面の汚れは溶剤を含ませた布で拭き取ってください。また、ガンのシュラウドをはずして、内部を溶剤で洗浄しないでください。

### 警告

- ノズルを洗浄する場合は、必ず高電圧スイッチを切る事を忘れないでください。
- 使用塗料が電気抵抗値の低い場合は絶縁台を使用しないと、静電効果がありません。  
一般的には、設定電圧-70kVにて塗料の抵抗値  $20M\Omega \cdot cm$  以下の場合、または高電圧発生器の電流計が $-50\mu A$ 以上を指示する場合は、絶縁台を用いる必要があります。
- 作業者は塗装機本体から 1m 以上離れてください。塗装機に接近すると電撃を受ける危険があります。
- 塗装室内には溶剤の容器を置かないでください。

### 注意

- ノズル部は、塗装システムの生命ともいえる部分ですから、落としたり、傷つけたりしない様、取扱いには、十分注意を払ってください。
- エアコンプレッサのドレンは 1 日 1 回必ず排出させてください。  
エアフィルタとミストセパレータのカートリッジエレメントは、半年から 1 年の間隔で交換してください。
- 塗料は必ず濾過してから使用してください。
- ガンのシュラウドをはずしたままで使用しないでください。
- 二液型塗料や沈殿しやすい塗料を使用する場合は、使用後には内部に塗料が残らないよう、十分に溶剤で洗浄してください。  
洗浄不足ですとバルブ内のベローズの耐久性を劣化させ、塗料漏れの原因になります。

## 過電流異常の定義

静電塗装機の高電圧充電部は絶縁材で保護されています。

過電流異常の発生する 1 つの原因に、この絶縁材の表面に塗料等の汚染物が付着すると絶縁不良となり、高電圧充電部の電流が付着塗料を通して漏れ、スパークを発生するなど危険な状態に至ります。

この高電圧電流の漏れ具合を監視して、設定電流値を超えると、高電圧発生器の出力を停止させて、未然に静電気事故を防止するのが過電流保護回路の働きです。この回路が働いた状態を過電流異常と呼びます。

過電流異常の際には、一般に警報の出力とともに塗装ラインの停止などの安全手順が実行される仕組みです。復旧の際には、絶縁不良部分の発見と絶縁復旧が不可欠です。

# 7

## 保守および点検

ガン、塗料ホース及び接続ケーブルは、塗料、その他の汚れの無いように常にきれいに保ってください。  
また、機械的衝撃によって破損しないように常に注意してください。

### 7.1 作業終了時の措置

塗装作業を中断または終了する際には、下記の手順にて中断、終了してください。

#### 7.1.1 24 時間以内に作業を再開する場合

(1) 制御盤の電源スイッチを OFF にします。

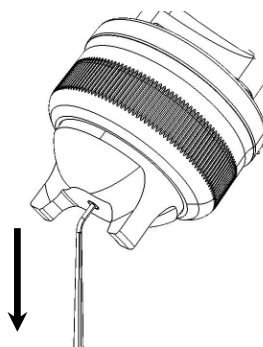
### ⚠ 注意

**塗料の電気抵抗値が低い場合(抵抗値 $2\text{M}\Omega \cdot \text{cm}$ 以下)は、塗料ポンプに高電圧がチャージされます。高電圧印加中には絶対にポンプには触れないでください。  
触れる場合や塗料を補充する時は、静電コントローラの電源を OFF にし、アース棒でアースしてから行ってください。**

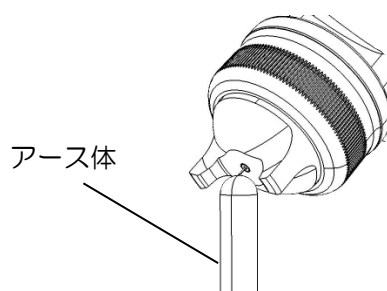
(2) ガンに供給するエア圧力を 0 MPa にします。

(3) 塗料圧送装置の駆動エア圧力を 0 MPa にします。

(4) ガン先から塗料を排出し、残圧を放出します。



(5) 残留電荷を除くためにトリガを開放した状態で、塗料ノズル先端部の電極ピンを静かにアースします。



(6) リティニングナットを左に回して取りはずし、エアキャップも取りはずしてください。

エアキャップを取りはずす際はガン内部にシンナ・溶剤が侵入しないように注意して行ってください。



### ⚠ 注意

エアキャップを取りはずす際は、落下させないようにしてください。  
落下させるとエアキャップが破損する恐れがあります。

### ⚠ 注意

人体への障害や事故に繋がる恐れがあります。  
エアキャップを取り外す際は、電極ピンに触らないようにしてください。

### ⚠ 注意

リティニングナット、ノズルおよび機器の破損に繋がる恐れがあります。  
リティニングナットを取りはずす際は、必ず手で回し取りはずしてください。  
工具等を使用すると破損する恐れがあります。

(7) 洗浄溶剤を染み込ませたウエスなどで、ガン及びエアキャップに付着した塗料ミストなどの汚れを取り除きます。

### ⚠ 注意

ガン及びエアキャップを洗浄する際は、金属ブラシ等の硬いブラシを使用しないでください。  
表面に傷が付き、性能を損なう恐れがあります。

## 注意

ノズル及びエアキャップを清掃する時は、溶剤が塗装機内部に入らないようにしてください。清掃後は霧化パターンエアを放出し、侵入した溶剤を排出してください。

## 注意

ガン内部に溶剤が浸入すると、静電印加時に過電流異常が起こり、静電塗装ができなくなるおそれがあります。

ガン表面に付着した塗料を通して静電気がリークすると過電流異常が起こり、静電塗装ができなくなります。

## 注意

洗浄及び洗浄後、または作業終了時などにガン本体、電源ケーブル、ホース等は、溶剤の中へ漬けたままにしないでください。ガン内部には電気・電子回路が詰まっており、通常の使用方法では溶剤が侵入しない構造を採用しています。

しかし、溶剤類へ長時間漬けることによって耐久性が損なわれて故障の原因となることがあります。

## 注意

二液型塗料のような化学硬化型の塗料や、沈殿しやすい塗料の場合は「7. 1. 2 24時間以上作業をしない場合」に基づいて作業終了後には毎回洗浄してください。

## 警告

ガン表面に汚れ防止などの目的で、シートなどを巻き付けたまま静電気を印加させると、これに帯電し、スパークを起こし、火災の原因となります。

## 注意

ガンを上向きに傾けて取り付けている場合は、霧化エアとパターンエアを0.05MPa程度の弱いエアを放出した状態で洗浄してください。

メタリック塗料のような導電性塗料がエア通路に浸入すると、この塗料を通じて静電気がリークして過電流異常が起こり、静電塗装ができなくなります。

- (8) シュラウドは週に一度は取りはずし、内部に塗料や溶剤が浸入していない事を確認してください。  
内部に塗料が付着している時は、溶剤で取り除いた後、エアブローして溶剤を完全に除去してから、シュラウドを取り付けてください。

### 注意

**シュラウドをはずしたままで塗装作業をしないでください。シュラウド内部に塗料ミストが付着すると、過電流異常の原因となります。**  
**シュラウドをはずしたままで、静電を印加させないでください。シュラウドの無い状態では、ガンの耐電圧性能が下がり、付近に接地物が有ると電圧破壊を起こしてシュラウドを取り付けても過電流異常が発生するおそれがあります。**

- (9) ガンへの接続ケーブルに損傷が無い事、またレシプロケータの稼動により、無理な引っ張りが無い事を使用前に毎日確認してください。

### 注意

**接続ケーブルはガンへの電源の供給だけでなく、ガンの接地や制御のための線でもあります。破損したままで使用すると、接地不良になり火災や電撃の原因になります。**

- (10) ガン本体の取付ブラケットなどの金属部が接地されている事を、使用前に毎日確認してください。  
ガンのブラケットとブースなど接地物との間を抵抗計で測定し、100Ω以下である事を確認してください。  
(11) ガンの固定部に緩みの無い事、ガンが被塗物などに当たらない事を使用前に毎日確認してください。

#### 7.1.2 24 時間以上作業をしない場合

- (1) 制御盤の電源スイッチを OFF にします。
- (2) ガンに供給するエア圧力を 0MPa にします。
- (3) 塗料コンテナから塗料ポンプの吸込みパイプを抜き出します。
- (4) 塗料ポンプを駆動させ、塗料リターン経路より塗料を排出してください。
- (5) ガンのトリガバルブを開き、ガン先よりホース及びガン内部に残っている塗料を排出させます。
- (6) 吸込みパイプより洗浄溶剤を吸い込ませ、リターン側より洗浄廃液容器へ排出し、ポンプ内部がきれいになるまで繰返し洗浄します。
- (7) ガン先より溶剤を排出し、ホース、ガン内部を洗浄します。
- (8) ポンプを停止させてガンのトリガバルブを開き、ガン先より残圧を放出します。
- (9) リティニグナットを左に回して、エアキャップを取りはずします。
- (10) 洗浄溶剤を染み込ませたウエスなどで、ガン及びエアキャップに付着した塗料ミストなどの汚れを取り除きます。
- (11) 専用スパナをノズルの HEX に当てて回し、ノズルを取りはずします。

尚、塗料経路内の残塗料の固着を防止するため、洗浄後、洗浄液は経路内に残したままにすることを推奨します。

## 注意

**塗料ノズルの破損に繋がる恐れがあります。**

ノズルを取りはずす際は、必ず付属の専用スパナを使用してください。

また、落下させないようにしてください。

(12) 塗料ノズルを洗浄溶剤にひたし、圧縮エアを当てて汚れを吹き飛ばしてください。

## 注意

**塗料ノズルの洗浄の際は、針金などの金属で突付いたりしないでください。**

また、金属ブラシなどを使用しないでください。穴径の拡大や傷などにより性能を損なう恐れがあります。

## 注意

ガンの洗浄は、静電コントローラの電源スイッチをOFFにしてから10秒経過した後に行ってください。静電塗装機による火災事故は、その90%以上がノズル等の洗浄時に発生しています。ノズル等を洗浄する時は、必ず電源スイッチを「OFF」にしてください。また、火災事故に備えて消火器を身近に準備してください。

## 注意

作業中に異常が発生した時は、ただちに静電コントローラの電源スイッチを「OFF」にし、ガンに供給するエア及び塗料の圧力を0MPaに下げてください。

## 注意

**落下等の強い衝撃を与えないでください。**

強度については十分考慮して設計されていますが、衝撃により破損することがあります。

(13) 洗浄廃液の廃棄処理については、溶剤回収装置を用いて回収再利用するか、あるいは産業廃棄物委託処理業者を通じて法令に従って処理してください。

## 7.2 その他の機器の保守

- (1) 塗料供給装置保守については、各々の取扱説明書をご参照ください。
- (2) エア制御式塗料調整器は、取付ブラケットの樹脂部に付着した塗料を使用後、毎日溶剤で取り除いてください。

### 注意

**エア制御式塗料調整器の取付ブラケット表面に塗料が多く付着すると、この塗料を通じて充電電流がリークし、過電流異常が発生することがあります。**

- (3) 二液型塗料や沈殿しやすい塗料を使用する場合には、使用後は十分に溶剤で洗浄し、3 ヶ月に一度、定期的に分解、洗浄を行なってください。

## 7.3 定期点検

本機の性能が充分発揮されるよう、次頁表に従って定期的に点検を実施してください。  
なお、点検時期は目安であり、使用状況により異なります。

### 警告

**塗装機の予期せぬ動作により人体への障害や事故に繋がる恐れがあります。**  
**定期点検を行う際は、制御盤の電源をOFFにし、エアと塗料の圧力を開放してから行ってください。**

項目	処置	期間
ガン本体の外観点検	塗料汚れがある場合は、柔らかい布やブラシに洗浄剤を染み込ませてガン本体を拭き取る。 ガン本体に損傷がある場合は新品に交換する。	1日
エアキャップ塗料汚れ点検	エアキャップに塗料汚れがある場合は柔らかい布やブラシに洗浄剤を染み込ませて拭き取る。	
エアキャップのエア噴出穴の詰まり点検	エアキャップを洗浄剤に浸した後、エアブローして除去する。 除去できない場合は新品に交換する。	
ペイントノズルの塗料出口周囲の傷、へこみ点検	ペイントノズルに傷やへこみがある場合は新品に交換する。	
ペイントノズルの塗料噴出穴の詰まり点検	ペイントノズルを洗浄剤に浸した後、エアブローして除去し、除去出来ない場合は新品に交換する。	
ペイントシート及びベローズニードル点検	洗浄剤を通しガンの塗料経路からノズルまでを洗浄後、ガン先より塗料漏れする場合はペイントシートもしくはベローズニードルを交換する。	
静電印加時の電流値確認	通常時より高い場合は電流リーク箇所を特定し、部品交換する。	
チャージ電極点検	ノズルの塗料噴出口から2mm未満である場合は新品に交換する。	
接続ケーブル点検	損傷がある場合は新品に交換する。	
各部エア漏れ点検	エア漏れがある場合は、該当部のシールを交換する。	
塗料ホース内の塗料汚れ点検	塗料汚れがある場合は洗浄剤を通し洗浄する。 塗料固着物が除去できない場合は新品に交換する。	
トリガバルブ点検	ガン先より塗料漏れが発生する場合は交換する。	
ピストン点検	トリガバルブのON/OFF 摺動に異常がある場合新品に交換する。	

## 注記

部品の交換方法については、「10 部品の交換方法」を参照ください。

## 注意

故障の場合以外は、みだりにガンを分解しないでください。  
ガン本体の電氣的絶縁やシール機能を確保するため、分解は故障による部品交換の時だけにしてください。

## 注意

高電圧発生器の熱によりガン表面が温くなる事がありますが、異常ではありません。

## 7.4 消耗部品

下記消耗品リストのランク区分を参考に使用状況にあわせた予備品をご準備ください。

ランク区分	品名	品番	耐用期間	構成ユニット	掲載ページ
A	ペイントノズル ASSY	15F7	6ヶ月	EAB500	40・41・48・49
	チャージ電極	1718	6ヶ月	EAB500	41・48
	Oリング	130-9012	6ヶ月	ペイントノズル ASSY	40・49
B	ペイントシート	1726	12ヶ月	EAB500	41・47・48・49
	Oリング	101-9005	12ヶ月	EAB500	46・48
	Oリング	101-6024	12ヶ月	ピストン ASSY	46・49
	Oリング	130-9006	12ヶ月	ペイントシート	49
	エラストマースプリング	1727-004	12ヶ月	ペローズシール ASSY	44・49
	ペローズニードル	1727-001	12ヶ月	ペローズシール ASSY	43・44・49
	Oリング	101-9007	12ヶ月	EAB500,ペローズシール	44・48・49
	リングシール	373-0010	12ヶ月	リティニングナット ASSY	49
C	Oリング	101-9006	—	EAB500	48
	Oリング	101-9010A	—	EAB500	48
	Oリング	101-9012	—	EAB500	48・49
	Oリング	130-9020	—	EAB500	48
	Oリング	130-9085	—	EAB500	48
	六角穴付ボルト	03-70625	—	EAB500	44・48
	プラグ	1724-002/1724-003	—	フロントブロック	43・49・50
	Oリング	130-9026	—	フロントブロック	49
	Oリング	130-9070	—	フロントブロック	49
	D	割ピン	49-10220	—	EAB500
Oリング		130-9004	—	フロントブロック	43・49・50
Oリング		130-90112	—	ペイントシート	49

ランク A：日常的に消耗する部品

ランク B：中期的に消耗する部品

ランク C：分解時に破損・紛失する恐れのある部品

ランク D：分解時に交換が必要な部品

※上記消耗品リストの耐用期間は使用塗料、設備条件等により異なりますので

20日/月で8時間/日で稼働させた時の参考値です。

## 8

## 塗装不良対策

塗料不良の状況によっては、複数の不良現象や原因が同時に発生する場合があります。

不良の現象	原因	対策
1. 噴霧の微粒化が悪い	①霧化空気圧が低過ぎる。	①霧化空気圧を高めにする。
	②塗料噴出量が多過ぎる。	②噴出量を少なめにするか、霧化空気圧を高めにする。
	③粘度が高過ぎる。	③塗料粘度を低くする。
	④ノズル先端ピンが曲がっている。	④チャージ電極を交換する。
	⑤塗料ノズルが損傷している。	⑤ペイントノズル ASSY を交換する。
	⑥溶剤が適性でない。	⑥塗料メーカ、もしくは当社にご相談ください。
2. 塗料のはね返りが多い	①吹付距離が離れ過ぎている。	①吹付距離を 150~200mm の範囲内で作業する。
	②霧化空気圧が高過ぎる。	②霧化空気圧を低めに調整する。
	③塗料抵抗値が低過ぎる。	③塗料抵抗値を 15~70MΩ・cm に調整する。
	④被塗物のアースが不完全である。	④アース状態を完全にする。
	⑤排気の色が遅過ぎる。	⑤排気の色を早めにする。
3. 塗着効率が悪い	①被塗物のアース不良。	①ハンガに固着した塗料の清掃をしてアースを完全にする。
	②霧化空気圧が高過ぎる。	②霧化空気圧を適正圧力に調整する。
	③吹付距離が離れ過ぎている。	③吹付距離を 150~200mm とする。
	④印加電圧が低い。	④静電コントローラの出力量調整スイッチで出力を上げる。
	⑤ブース給排気の色が早過ぎる。	⑤ブース給排気の色を遅めに調整する。
	⑥塗料の電気抵抗値が高過ぎる。	⑥抵抗値を 15~70MΩ・cm に調整する。
4. ノズルに塗料が付着してヒゲを生じる、または被塗物に糸状のブツを生じる	①溶剤の蒸発が早過ぎる。	①蒸発の遅い溶剤に変えるか、添加剤で調整する。
	②塗料の粘度が高い。	②塗料の粘度を低くする。
5. 塗装面にぶつぶつを生じる	①噴霧の微粒化が悪い。	①本章 1 項の「噴霧の微粒化が悪い」を参照してください。
	②塗装室内のほこりが多く、塗装面にほこりが付着している。	②塗装室の吸気部へ除塵フィルタを設置し、塗料面のほこりを除去する。
	③霧化空気汚染。	③空気通路のフィルタを清掃または交換する。
	④塗料の顔料分散の不良。	④溶剤を検討するか、塗料をよく攪拌する。
6. ゆず肌(ぶち、あばた)になる	①塗装室内温度が高いか、または溶剤の蒸発が早い。	①室温の調整、または蒸発速度の遅い溶剤に変える。
	②被塗物の温度が高過ぎる。	②被塗物の温度を下げるため、乾燥炉を調整する。
	③給排気の色が早過ぎる。	③被塗物面で 0.5~1.0m/s に調整する。
7. はじきが出る	①被塗物の清掃が不十分。	①清掃を十分に行う、または脱脂を十分に行う。
	②霧化空気汚染。	②空気通路のフィルタを清掃か交換。
	③焼付炉の排気不良。	③排気を十分に行う。

不良の現象	原因	対策
<b>8. 塗装面で塗料がたれる</b>	①塗膜が厚過ぎる。	①塗料の噴出量を下げるか、ガンの運行速度を上げる。
	②塗料の粘度が低過ぎる。	②塗料の粘度を上げる。
	③溶剤の蒸発速度が遅い。	③蒸発速度の速い溶剤に変える。
<b>9. 塗膜が透ける</b>	①塗料の噴出量が少ない。	①塗料噴出量の調整とガンの運行速度および塗り重ねを考慮する。
	②塗料粘度が低過ぎる。	②粘度を上げる。
<b>10. ピンホール(小穴)が生じる</b>	①霧化空気の汚れ。	①空気通路のフィルタを清掃または、交換する。
	②溶剤の蒸発が早過ぎる。	②蒸発の遅い溶剤に変える。
	③被塗物の温度が高い。	③温度を下げる。
	④下塗りの乾燥が不十分。	④乾燥を十分行う。
	⑤セッティング時間が短い。	⑤セッティング時間を十分取る。
<b>11. かぶり(白化)を生じる</b>	①塗装室内外の温度および湿度が高い。	①蒸発速度の遅い溶剤にする。 または空調設備を点検する。
	②溶剤の選定が不適當。	②塗料・溶剤メーカーか、当社にご相談ください。
<b>12. わき(発泡)を生じる</b>	①霧化空気の汚れ。	①空気通路フィルタを清掃、または交換する。
	②水研ぎ後の乾燥が不十分。	②乾燥を十分に行う。
	③塗膜が厚過ぎる。	③塗料噴出量を少なめにする。
	④溶剤の蒸発が早過ぎる。	④蒸発速度の遅いものに変える。
	⑤焼付炉の温度が高過ぎる。	⑤温度を適性値に調整する。
<b>13. パターン形状が悪い</b>	①塗料ノズルの霧化空気および塗料噴出口に塗料や塵埃が固着している。	①シンナと竹ブラシでよく洗浄すると共に、塗料をろ過する。
	②塗料の粘度が高い。	②粘度を下げる。
	③ノズル先端部が損傷している。	③修理するか、交換する。
	④パターン調整不良。	④パターン調整を行う。
	⑤塗料ノズルの取付不良。	⑤ペイントノズル ASSY が緩んでいない事を確認して、エアキャップを取り付ける。

故障の状況によっては、複数の現象や原因が同時に発生する場合があります。

故障の現象	原因	対策
1. 塗料の噴出が不安定で、塗装中息切れ状態になる	①ペイントノズル ASSY の締め付け不十分。	①ペイントノズル ASSY を十分に締め付ける。
	②ペイントシートもしくはベローズニードルのシート面の損傷。	②ペイントシートもしくはベローズニードルを交換する。
	③塗料に空気が混入している。	③塗料供給系統を調べる。
	④塗料噴出量が極端に少ない。	④塗料噴出量を増やすか、霧化空気圧力を下げる。
	⑤ベローズ駆動用のエラストマースプリングの損傷。	⑤エラストマースプリングを交換する。
2. 塗料噴出量が少なくなっている	①塗料圧送系統の異常。	①塗料ポンプや塗料レギュレータなどの塗料供給系統を調べる。
	②ペイントシート部に塗料の固まりや塵埃が詰まった。	②ペイントシート部を洗浄する。
	③ペイントノズル ASSY に塗料や塵埃が固着している。	③ペイントノズル ASSY を取りはずし、洗浄する。
3. ノズルから塗料が漏れる	①ペイントシート部に、塗料の固まりや塵埃が詰まった。	①ペイントシート部を洗浄する。
	②ペイントシート部の摩耗やカケ。	②ペイントシートもしくはベローズニードルを交換する。
	③ピストン ASSY 後方のスプリングのへたり。	③ピストン ASSY 後方のスプリングを交換する。
	④塗料の圧送圧力が高過ぎる。	④圧送圧力を下げる。
4. 本体漏れ確認穴から塗料が漏れる	①ベローズシールの損傷。	①ベローズニードルを交換する。
	②塗料パイプ・プラグの O リング損傷。	②塗料パイプ・プラグの O リングを交換する。
5. トリガバルブの開閉動作が不安定	①ピストン周辺部の O リング摩耗。	①ピストン周辺部の O リングを交換する。
	②ピストン ASSY 後方のスプリングのへたり。	②ピストン ASSY 後方のスプリングを交換する。
	③ベローズ駆動用のエラストマースプリングの損傷。	③エラストマースプリングを交換する。

故障の現象	原因	対策
6. ノズル部より火花が出る (絶縁台を使用していない場合)	①パワーパックの損傷。	①パワーパックを交換する。
7. ノズル部より火花が出る (絶縁台を使用している場合)	①パワーパックの損傷。	①パワーパックを交換する。
	②塗料の電気抵抗値の低い塗料か メタリック塗料に変えた。	②静電コントローラの出力電圧を下げる。
8. コントロールユニットの警報ブザーが鳴る (絶縁台を使用していない場合)	①ガン本体外面に塗料が付着している。	①ガン本体外面を清掃する。
	②塗料ホース内径に塗料が付着している。	②塗料ホースを清掃する。
	③エア通路内に水分が たまっている。	③エアライン中のドレン排出を十分に行う。 静電コントローラの電源を切り、 トリガバルブを開放してエアパージを 行い、エア通路内の水分を噴出する。
	④塗料の電気抵抗値の低い塗料か メタリック塗料を使用した。	④絶縁台を使用する。
	⑤ベローズシール損傷 よって塗料が漏れだした。	⑤ベローズニードルを交換する。
9. コントロールユニットの警報ブザーが鳴る (絶縁台を使用している場合)	①ガン本体外面に塗料が付着している。	①ガン本体外面を清掃する。
	②塗料ホース内径に塗料が付着している。	②塗料ホースを清掃する。
	③エア通路内に水分が たまっている。	③エアライン中のドレン排出を十分に行う。 静電コントローラの電源を切り、 トリガバルブを開放してエアパージを 行い、エア通路内の水分を噴出する。
	④絶縁台の近くにアース物体がある。	④絶縁台をアース物体より 300mm 以上 離す。
	⑤絶縁台の絶縁棒に塗料が付着している。	⑤絶縁棒を清掃する。
	⑥絶縁台の絶縁棒より上の部分がアース されている。	⑥絶縁棒より上の部分のアースを切り離す。
	⑦ベローズシール損傷 よって塗料が漏れだした。	⑦ベローズニードルを交換する。

 **注意**

この取扱説明書に指示する方法以外での修理を行わないでください。

部品の交換、及び修理は次の手順で行ってください。

下記で示すネジ部（ペイントノズル ASSY・リティニングナット ASSY を除く）・摺動部 O リングを取り付ける際は白色ワセリンを塗布してください。

各 ASSY 部の O リング等シール部品は分解時に破損等があれば随時交換してください。

### 警告

**塗装機の予期せぬ動作により人体への障害や事故に繋がる恐れがあります。**

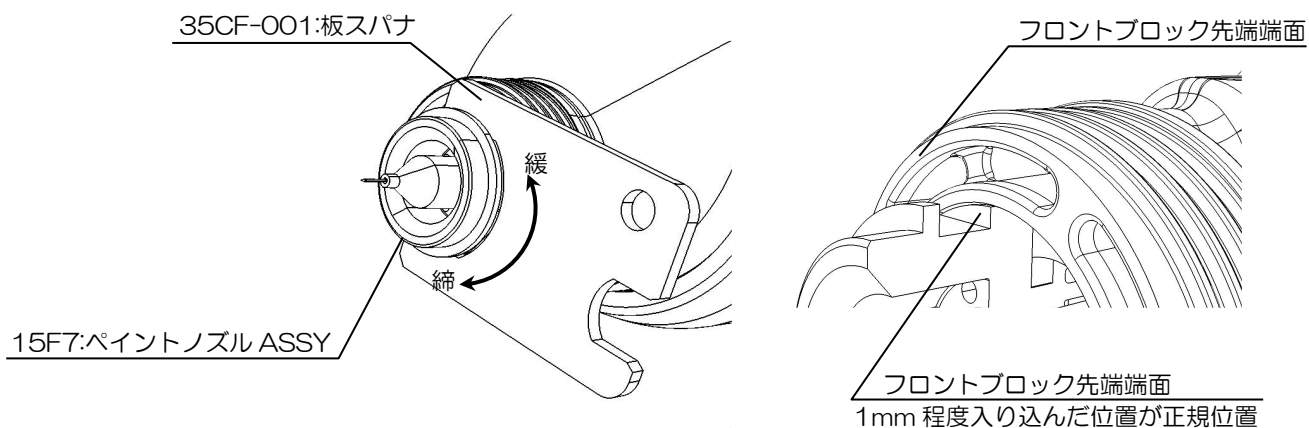
**部品の交換、及び修理の際は、必ずガンに供給されているエア、静電コントローラの電源を OFF、塗料経路内の塗料を排出・洗浄した後実施してください。**

#### 10.1 エアキャップの交換

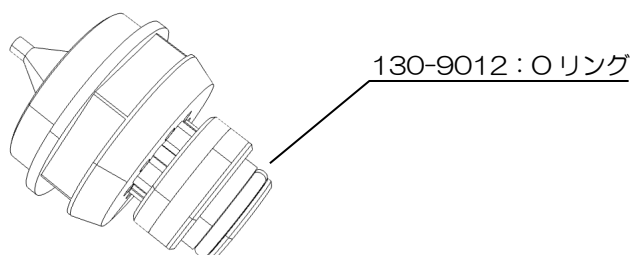
4 章「据付」の 4.8 エアキャップの取付を参照に取りはずし、交換してください。

#### 10.2 ペイントノズル ASSY の交換

- (1) 付属工具の板スパナを用いてペイントノズルを着脱し、交換してください。ペイントノズルを再装着する際は下記ペイントノズル指定面がフロントブロック先端端面より 1 mm 程度入り込んだ位置が正規位置です。その位置まで締め込んでください。  
正規位置に達していない場合はパターン調整不能や塗料逆流が発生する可能性があります。

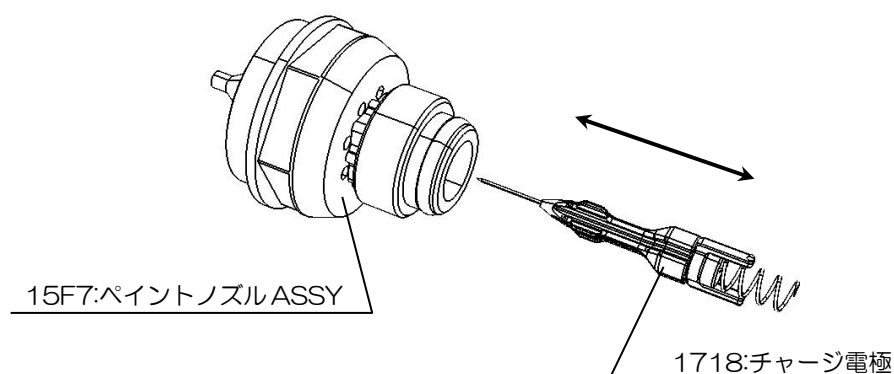


- (2) ペイントノズル ASSY を取りはずした際は 130-9012:O リングが破損している場合は交換してください。



### 10.3 チャージ電極の交換

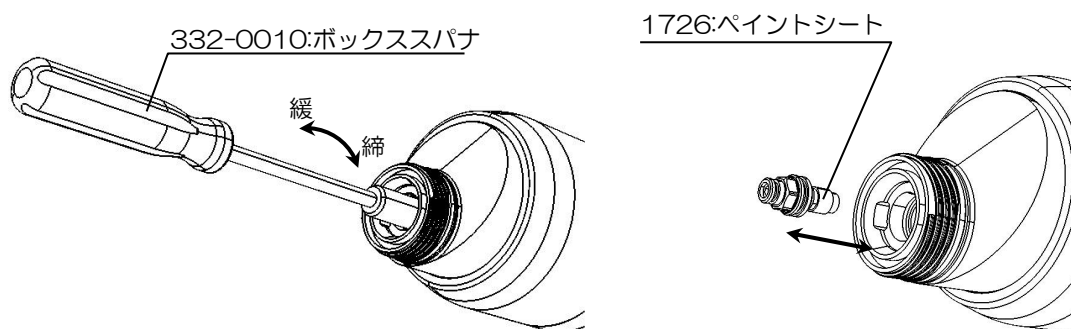
取り外したペイントノズル ASSY からチャージ電極のスプリング部を指でつまみ、取り外して交換してください。



### 10.4 ペイントシートの交換

(1) 塗料ポンプを停止させ残圧を抜き、ペイントノズル ASSY 及びチャージ電極を取りはずした状態で付属工具のボックススパナを用いてペイントシートを取り外して交換してください。

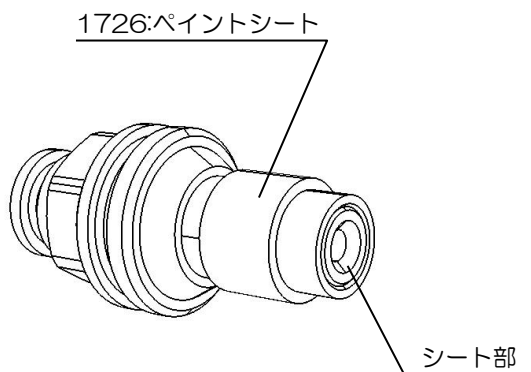
※推奨締め付けトルク=200cN・m



(2) ペイントシートのシート部を洗浄する際はシンナで洗浄し、洗浄後、エアブローでしっかりと乾燥させてください。

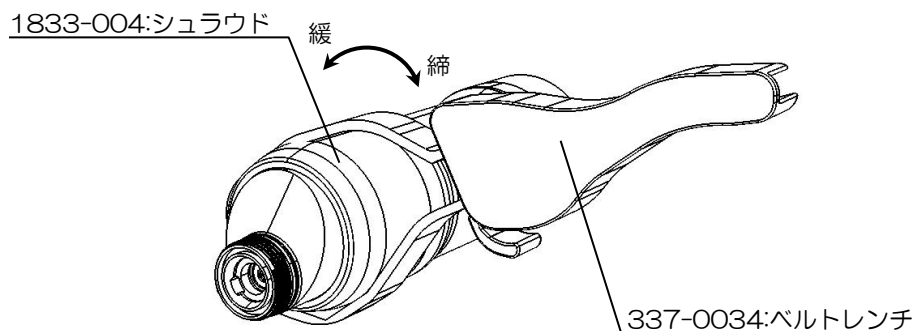
※シート部の洗浄には金属製のブラシ等を使用しないでください。

シート部が傷ついてシート不良になる可能性があります。

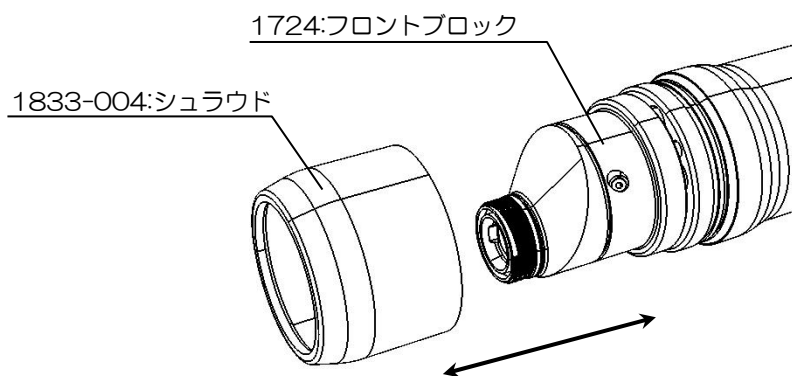


## 10.5 シュラウドの着脱

(1) シュラウドのベルトレンチを取り付けて取り外してください。



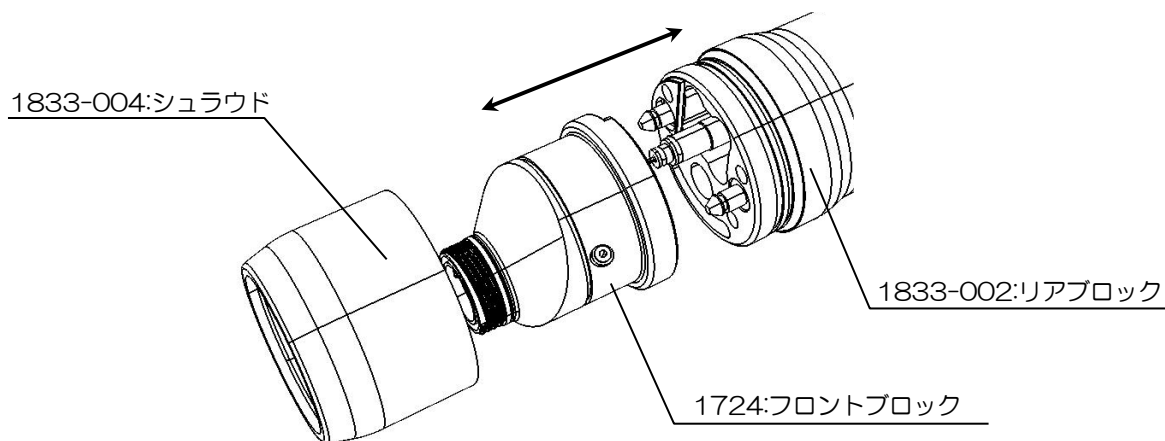
(2) シュラウドを取り外す際はフロントブロック ASSY や装着されている O リングの脱落防止処置を実施した上で行ってください。



## 10.6 フロントブロック ASSY の分解

(1) リアブロックからフロントブロック ASSY を取り外してください。

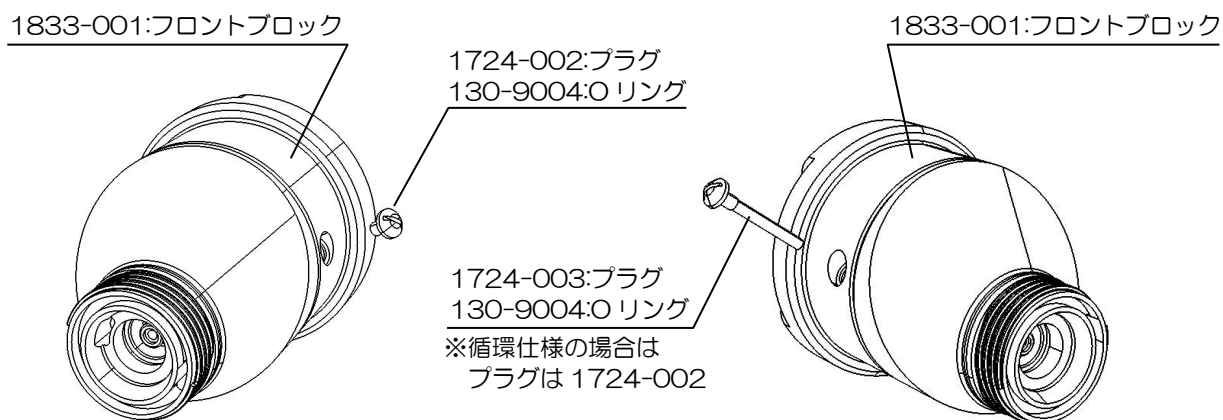
※塗料ホース・パイプで保持されていますので引き抜いてください。



(2) フロントブロック内塗料経路を洗浄する場合はプラグを取り外して棒状ブラシ等で塗料経路を洗浄してください。

プラグを取り外した場合はプラグに装着されているOリングを交換してください。

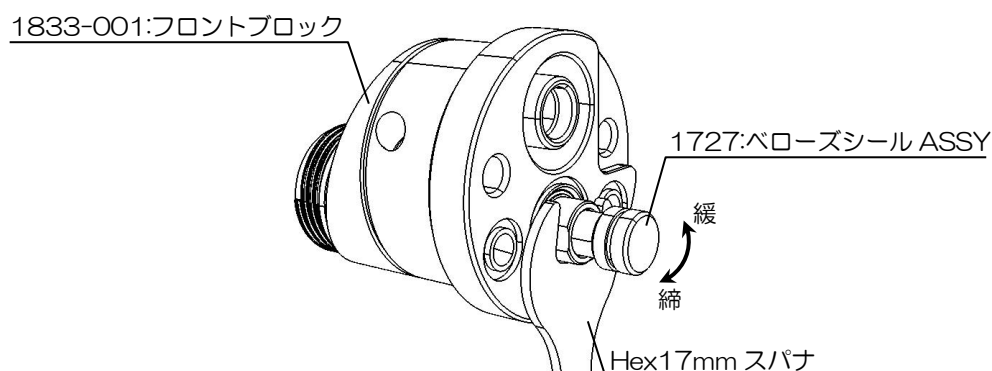
※フロントブロックは樹脂製ですので金属製ブラシを使用すると破損する可能性があります。



(3) フロントブロックに装着されている各種Oリングの状態を確認して破損している場合は交換してください。

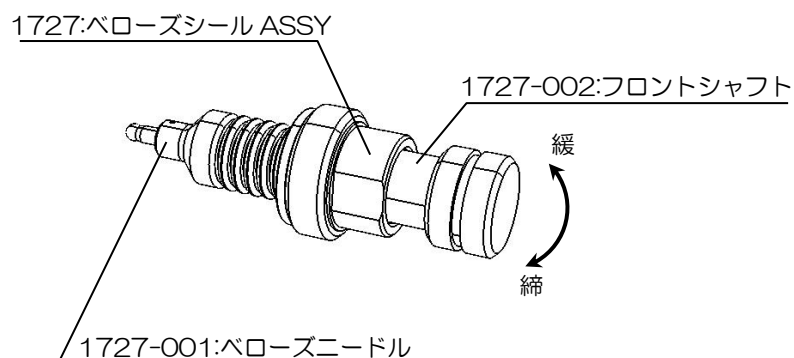
## 10.7 ベローズシール ASSY の分解

(1) Hex17mm のスパナを用いてフロントブロックからベローズシール ASSY を取り外してください。

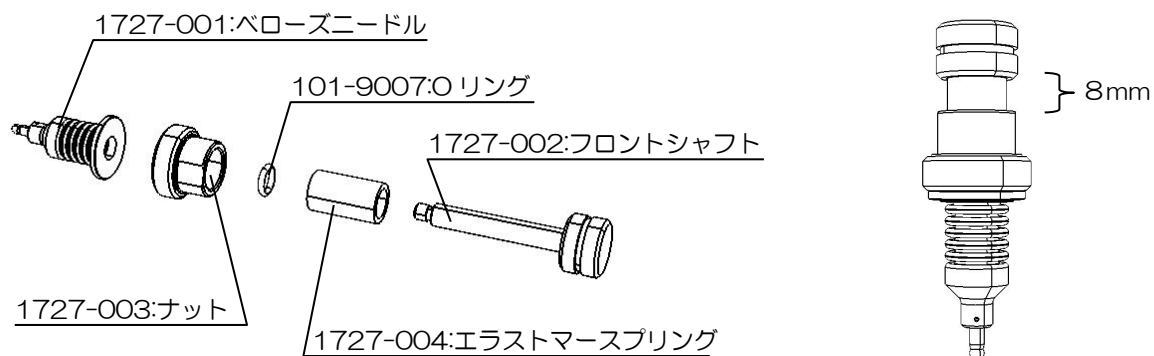


(2) 取り外したベローズシール ASSY のベローズ部を持ってフロントシャフトを取り外してください。

※ベローズニードルとフロントシャフトの取付けは樹脂ネジですので強く締め込むとネジ部が破損する可能性があります。

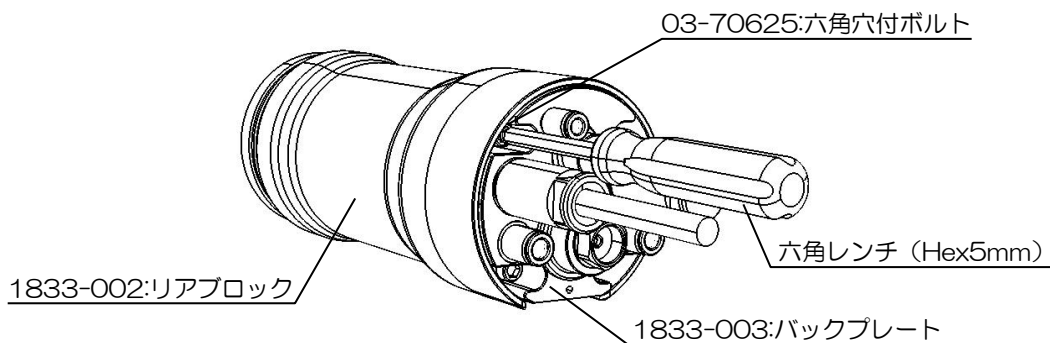


- (3)ベローズニードル、Oリング、エラストマースプリング等に破損が有る場合は交換してください。  
組付ける際は必要部品を下図のように装着し、ベローズニードルを持ってフロントシャフトを  
締め込んでください。(軟質樹脂の為、ネジ部の完全締め込みが感覚では認識出来ません。  
締め込み量の目安としてはナットとフロントシャフト間が8mmになる所まで締め込んでください。)

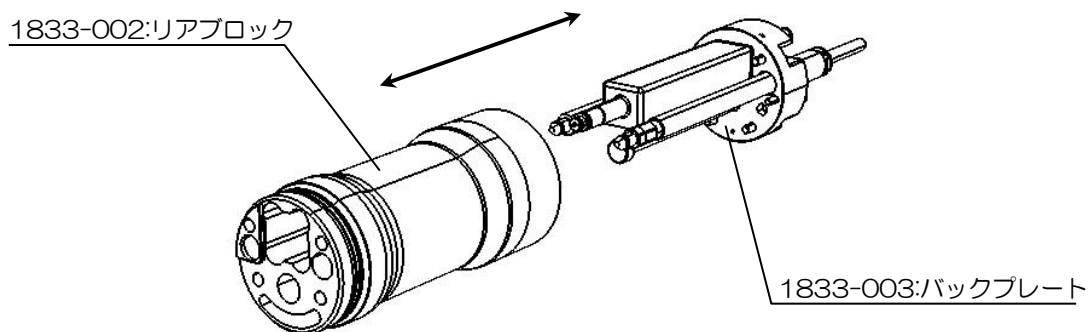


### 10.8 エクステンションの取外し

- (1)リアブロックとバックプレート相结合している六角穴付ボルト (M6×25L) × 4本を  
Hex5mmの六角レンチを用いて取り外してください。  
※六角穴付ボルトを取り外す際は脱落防止処置を行った上、実施してください。

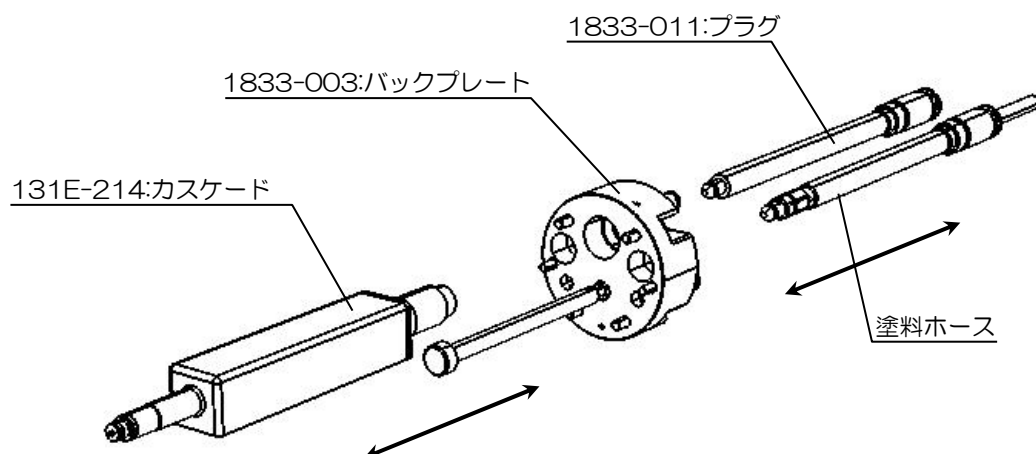


- (2)六角穴付ボルトを取り外した後にバックプレートからリアブロックを取り外してください。

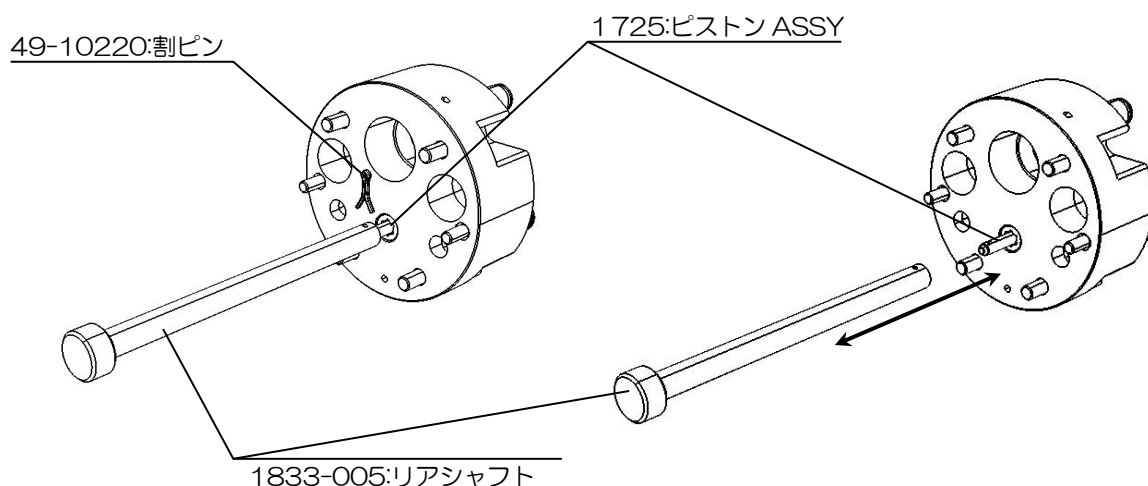


(3) リアブロックを取り外した後にバックプレートからパワーパック及び塗料ホース・プラグを取り外してください。

※パワーパックを取り外す場合は事前に接続ケーブルを取り外してから行ってください。



(4) エクステンションとピストン ASSY を固定している割ピンを取り外してエアクステンションを取り外してください。

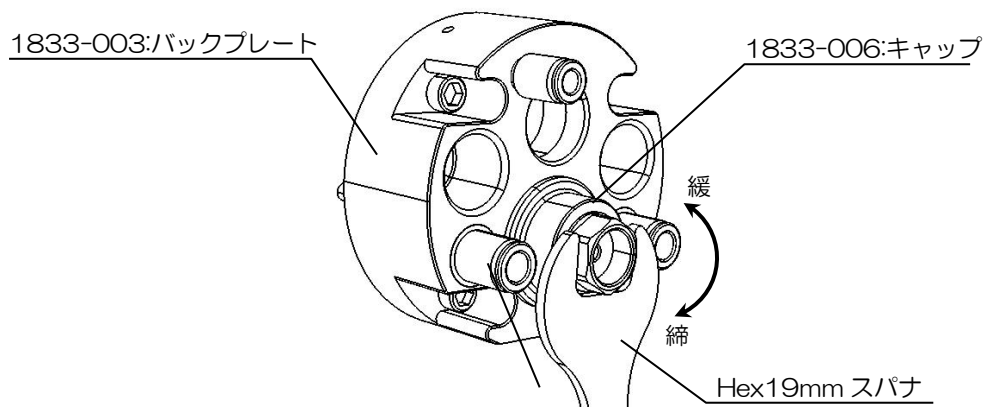


※割ピンは複数回着脱を繰り返すと破損する恐れがありますので予備を用意して実施してください。

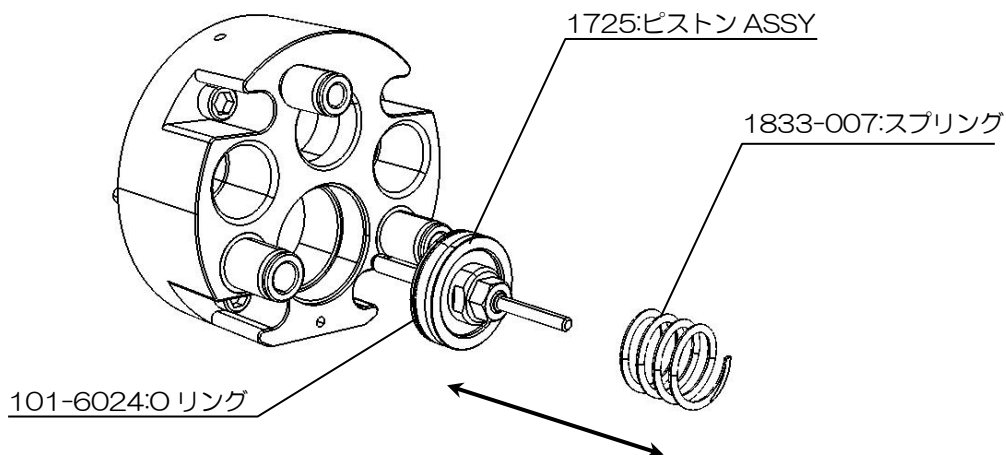
## 10.9 ピストン ASSY の交換

(1) Hex19mm のスパナを用いてバックプレートからキャップを取り外してください。

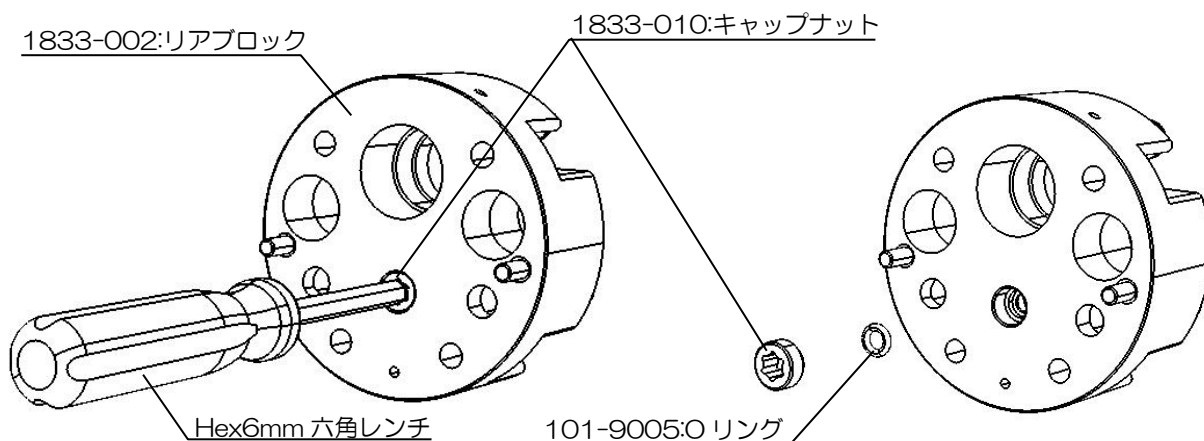
※キャップ内部にスプリングが設置されていますので取り外す際にキャップが落下する可能性がありますので注意して作業を行ってください。



(2) キャップを取り外した後に内部に設置してあるスプリング及びピストンASSYを取り外してください。  
 ※ピストン部Oリングは摺動シールですので取り外した場合は交換する事を推奨致します。



(3) リアブロックの装着されているキャップナットをHex6mmの六角レンチを用いて取り外してください。その際リアブロック内部に装着されているOリングが破損している場合は交換してください。

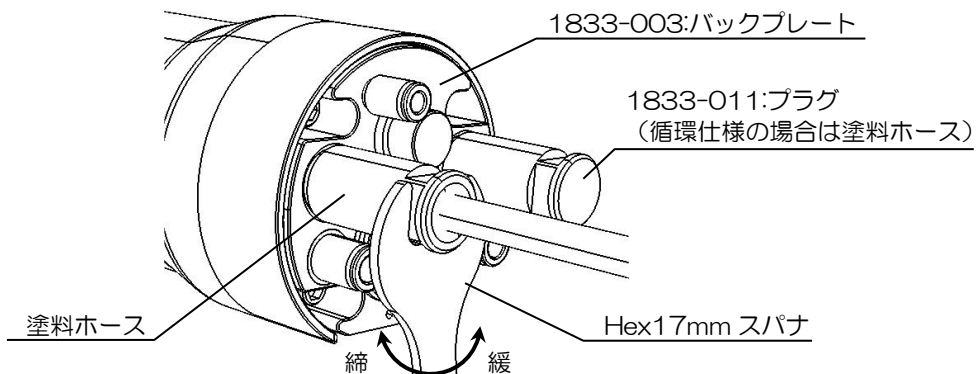


### 10.10 塗料ホース・プラグの取付

ガン本体を組み付けた後にHex17mmのスパナを用いてバックプレートに塗料ホース・プラグを取り付けてください。

※塗料ホース・プラグは必ずガン本体を全て組み付けた後に取り付けてください。

先に取り付けた場合、塗料ホース・プラグの挿入位置によってフロントブロックASSYが正規位置にならず、エア漏れが発生する可能性があります。

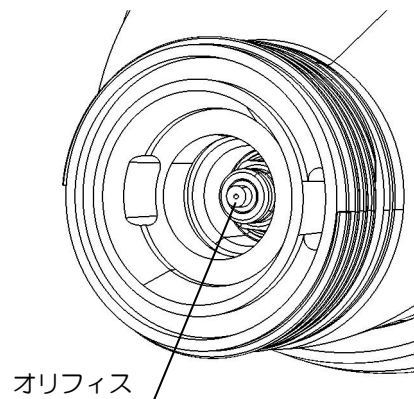
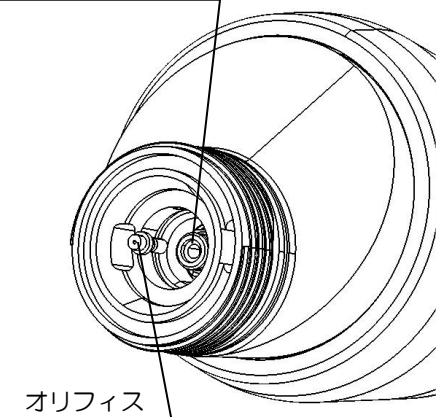


## 10.11 オリフィスの取付

本製品には噴出量を調整する部品としてオリフィスをガン本体に装着する事が出来ます。

- (1) ペイントノズル ASSY 及びチャージ電極を取り外した状態でオリフィスをペイントシートの指定装着部位に挿入してください。

1726:ペイントシート



- (2) オリフィス装着後は装着したオリフィスが脱落しないようにチャージ電極を装着したペイントノズル ASSY を取り付けてください。

- (3) オリフィスは初期本体構成には付属部品としてオリフィス径 $\phi 0.7$  (品番:1832-750) が構成されていますが、別売で用途に合わせて下記表から選定してください。

オリフィス径	品番	識別	備考
$\phi 0.5$	1832-550	 識別線=1本	
$\phi 0.7$	1832-750	 識別線=3本	初期構成品
$\phi 0.9$	1832-950	 識別線=5本	

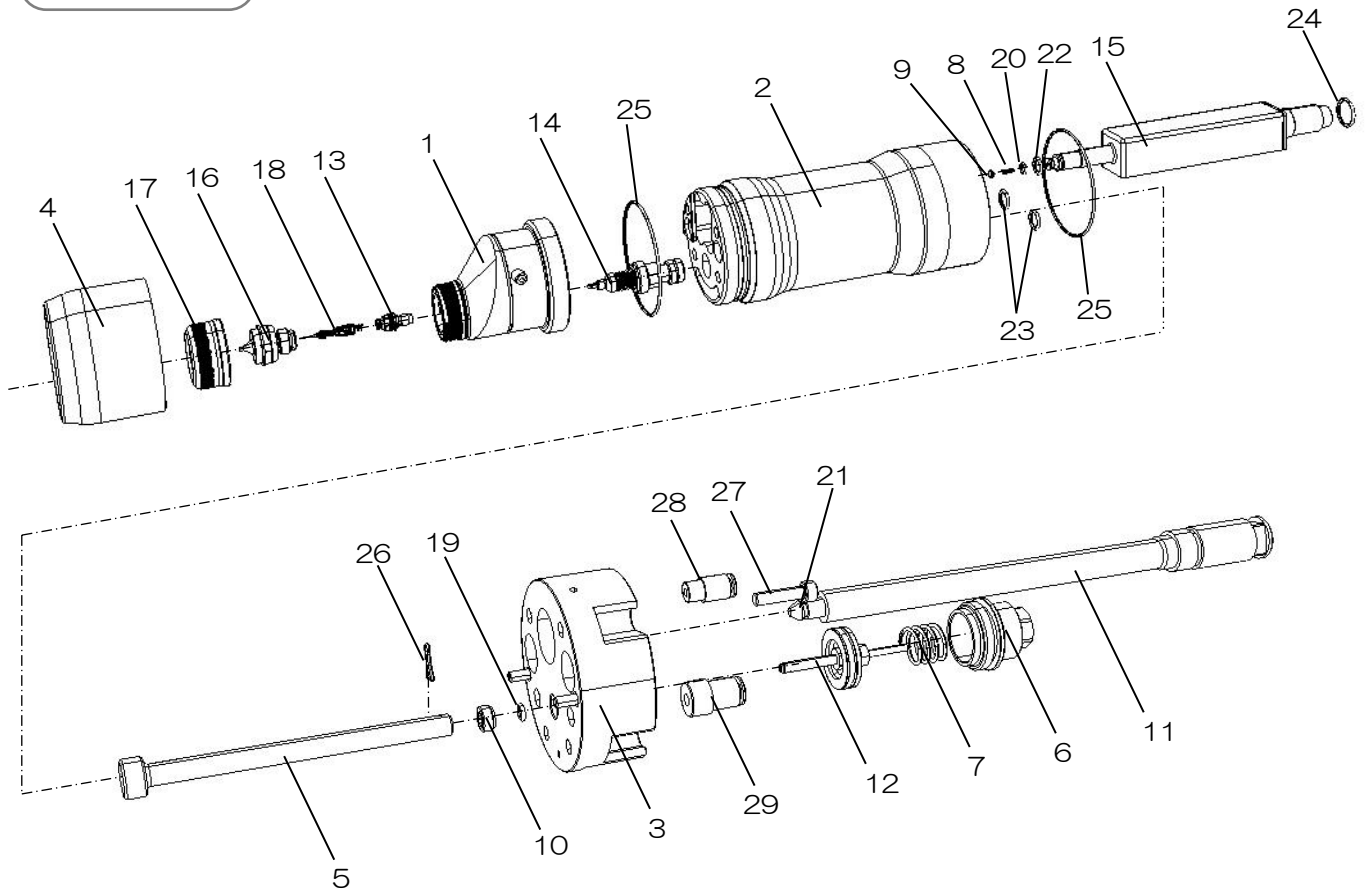
# 11

## 構成部品

### 11.1 EAB500

EAB500

1833

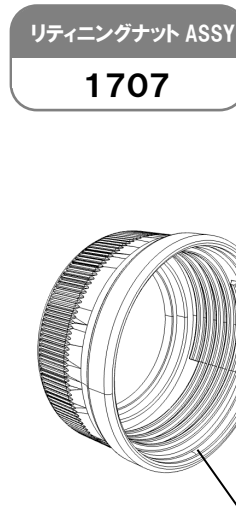
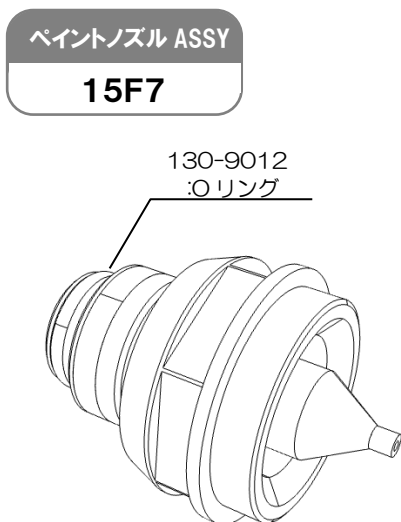
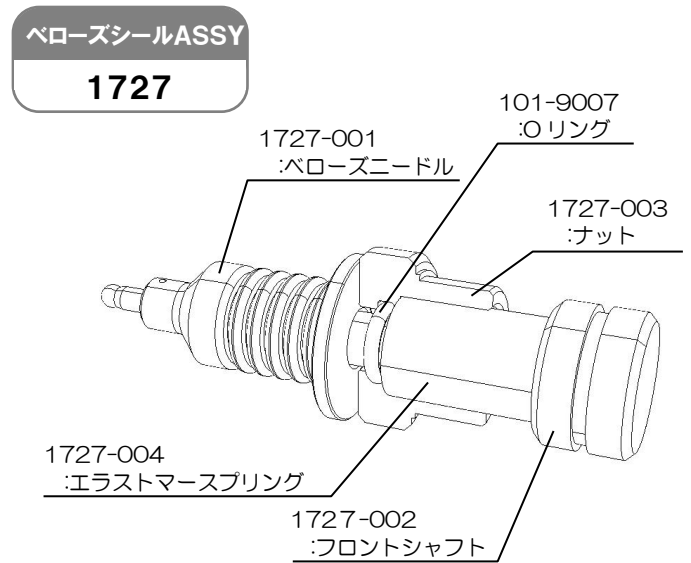
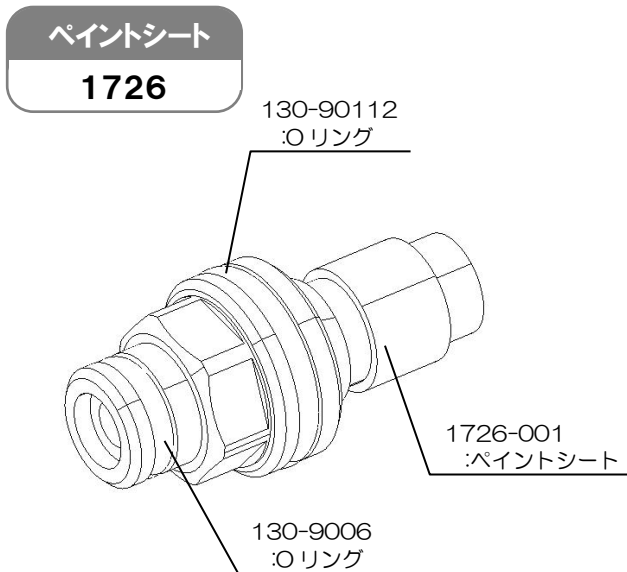
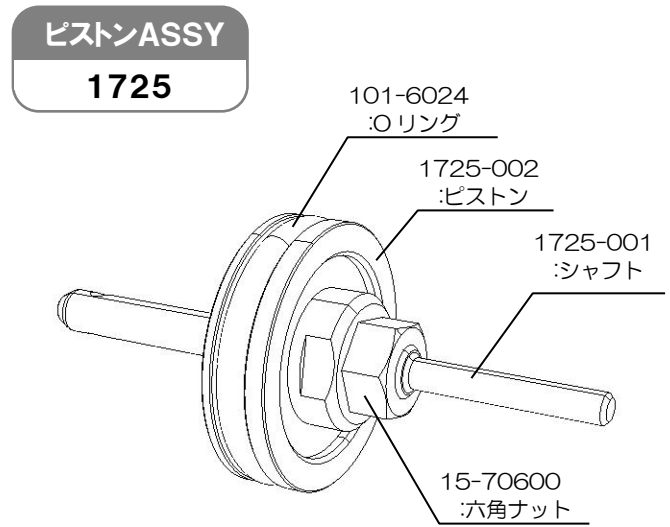
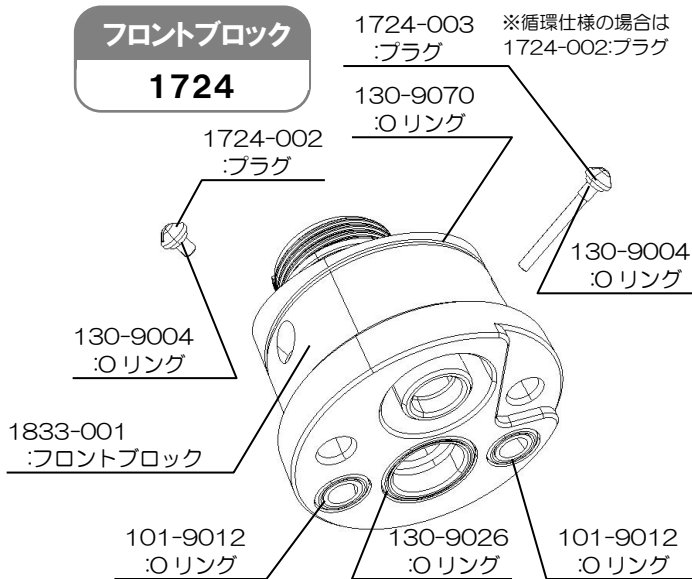


番号	部品番号	品名	個数	備考
1	1724	フロントブロック	1	
2	1833-002	リアブロック	1	
3	1833-003	バックプレート	1	
4	1833-004	シュラウド	1	
5	1833-005	リアシャフト	1	
6	1833-006	キャップ	1	
7	1833-007	スプリング	1	
8	1833-008	スプリング	1	
9	1833-009	コンタクト	1	
10	1833-010	キャップナット	1	
11	1833-011	プラグ	1	
12	1725	ピストン ASSY	1	
13	1726	ペイントシート	1	
14	1727	ベローズシール ASSY	1	
15	131E-214	カスケード	1	
16	15F7	ペイントノズル ASSY	1	

番号	部品番号	品名	個数	備考
17	1707	リチニングナット ASSY	1	
18	1718	チャージ電極	1	
19	101-9005	Oリング	1	
20	101-9006	Oリング	1	
21	101-9007	Oリング	1	
22	101-9010A	Oリング	1	
23	101-9012	Oリング	2	
24	130-9020	Oリング	1	
25	130-9085	Oリング	2	
26	49-10220	割ピン	1	
27	03-70625	六角穴付ボルト	4	
28	378-0601	六角穴付ストレート(φ6)	1	
29	378-0803	六角穴付ストレート(φ8)	2	
30	1719	付属部品セット	1	
31	35EE-1	付属工具	1	

## 11.2 交換部品

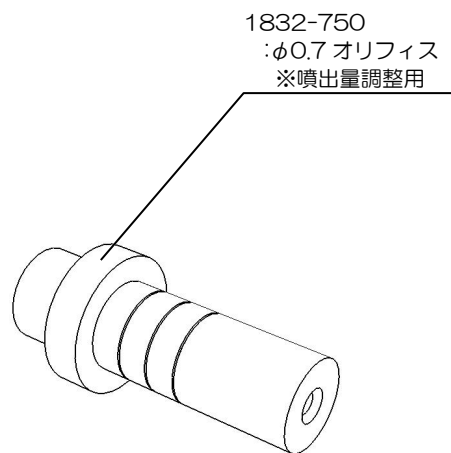
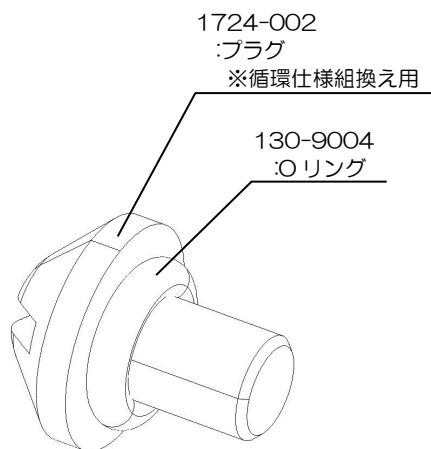
下記に部品 ASSY 内の交換可能部品を挙げます。  
表示のない部品に関しては ASSY 単位で交換するようにしてください。



※リングシールを取り外す場合は  
取り外しの際に破損する可能性が  
非常に高い為、必ず新品に交換してください。

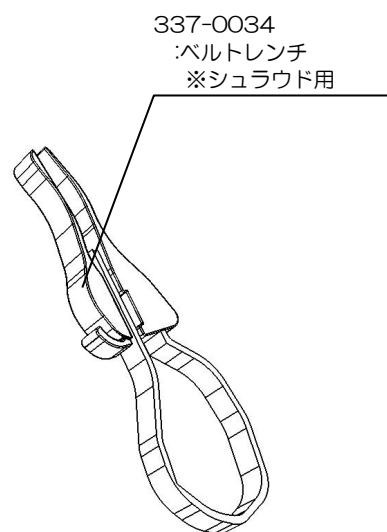
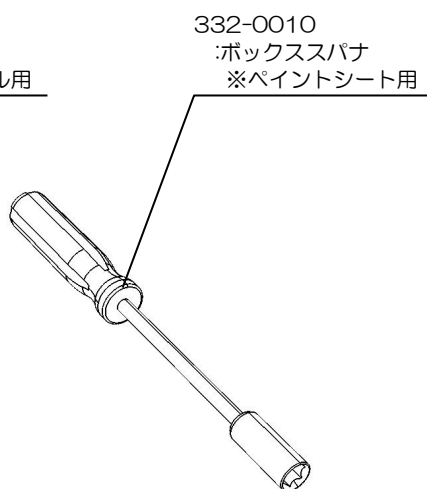
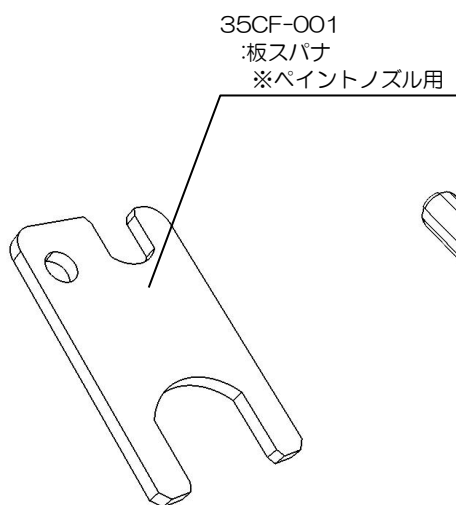
付属部品セット

1719



付属工具

35EE-1





本保証書は、下記規定内容で無償修理を行うことをお約束するものです。  
 納入日から1年を保証期間として、万が一故障が発生した場合、本保証書に記載の規定により無償修理または交換いたします。

型式	EAB500	品名	エア静電自動ガン
製造番号		納入日	年 月 日
お客様	御社名		
	ご担当者名		
	ご住所	〒	
	TEL		
販売店	販売店名		
	住所		
	TEL		

誠に恐縮ですが、「保証書」は、内容をよくお読みになった上で、「お客様のお名前・ご住所」、「納入日」、「販売店」など必要事項については、お客様でご記入していただき、納品書とともに大切に保管して下さるようお願いいたします。なお、無償保証による修理等をご依頼される場合、本保証書と共に納入日を証明できる納品書をご提示ください。

#### ●保証規定

- 取扱説明書、本体添付ラベル等の注意書に基づいて、お客様が正常な状態のもとでご使用になり、万一保証期間内に故障した場合は、販売店、または当社営業所に修理をご依頼ください。  
 当社で点検・調査した後、その故障が材質・製造上の欠陥であると判明した場合は、無償にて故障箇所の修理または取り替えをさせていただきます。  
 なお、離島および離島に準ずる遠隔地への出張修理を行った場合には、出張に要する実費を申し受けることがあります。
- 本製品の故障またはその使用によって生じた本製品以外に及ぼす損害については、当社はその責任を負わないものとします。
- 次のような場合には、保証期間中でも有償修理になります。
  - 保証書および納品書のご提示がない。
  - 本保証書に製造番号またはロット番号、および販売店名の記入のない、または記載内容を書き替えられたことが判明。
  - お客様による輸送、移動時の落下、衝撃等、お客様の取り扱いが適正でないために生じた故障、損傷。
  - お客様による改造、修理に起因する故障および損傷。
  - 火災、塩害、ガス害、地震、落雷、および風水害、その他天災地変、あるいは異常電圧などの外部要因に起因する故障および損傷。
  - 本製品に接続している当社以外の機器およびソフトウェアに起因する故障および損傷。
  - 消耗品の交換・修理。
  - 純正部品以外の部品が使用されていた場合の故障。
- 本保証書は日本国内においてのみ有効です。
- 本書は再発行いたしませんので大切に保管ください。  
 この保証書によってお客様の法律上の権利を制約するものではありません。  
 保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は販売店、または当社営業所にお問い合わせください。

【MEMO】

【MEMO】



- 
- 本機械を譲渡するときは、必ず機械に本書を添付して次の所有者に渡してください。
  - 本機械は、日本国内の法規に基づき製作されています。  
本機械を日本国以外で使用するときは、その国の安全規格を遵守する必要があります。
- 

令和 8年 2月16日 第20版

## 旭サナック株式会社

本社  
愛知県尾張旭市旭前町新田洞 5050 番地 〒488-0852  
TEL 0561-53-1213 FAX 0561-54-8847

URL : [www.sunac.co.jp](http://www.sunac.co.jp)  
E-mail : [sunac\\_c@sunac.co.jp](mailto:sunac_c@sunac.co.jp)



営業所一覧

令和 8年 2月16日 第20版